

函館市地域包括支援センター 亀田

令和元年度（2019年度）活動評価

令和2年度（2020年度）活動計画

北東部第2圏域



— 目 次 —

1. 圏域の現状と課題	・・・	p.1
2. 活動評価と活動計画		
① 包括的支援事業		
ア 地域包括支援センターの運営		
(ア) 総合相談支援業務	・・・	p.3
(イ) 権利擁護業務	・・・	p.9
(ウ) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	・・・	p.15
(エ) 地域ケア会議推進事業	・・・	p.19
イ 生活支援体制整備事業		
(ア) 第2層生活支援コーディネーター業務	・・・	p.21
ウ 認知症総合支援事業	・・・	p.27
② 介護予防・日常生活支援総合事業		
ア 一般介護予防事業		
(ア) 地域介護予防活動支援事業	・・・	p.31
(高齢者の生きがいと健康づくり推進事業)		

圏域の現状と課題

1. 人口の推移と年齢構成

(人)

R1.9末

	H28.3	H29.3	H30.3	H31.3	R1.9	割合	全市
年少人口	4,327	4,265	4,172	4,057	5,049	13.7%	9.7%
生産年齢人口	22,290	22,068	21,727	21,462	21,456	58.0%	55.2%
高齢人口	9,658	9,944	10,247	10,406	10,469	28.3%	35.1%
(再掲) 65～74歳	5,220	5,302	5,426	5,352	5,399	14.6%	17.1%
(再掲) 75歳以上	4,438	4,642	4,821	5,054	5,070	13.7%	18.0%

2. 世帯構成

R1.9末

	世帯数	割合	全市
高齢者単身世帯	3,708	19.4%	24.7%
高齢者複数世帯	2,309	12.1%	13.0%
その他	13,081	68.5%	62.3%

3. 要介護認定等の状況

R1.9末

	H31.3	R1.9	全市
事業対象者・要支援認定者(人)	811	797	7,508
事業対象該当率・要支援認定率(%)	7.8%	7.6%	8.3%
予防給付実績(人)		528	4,943
給付率(%)		66.2%	65.8%

4. 介護保険サービス事業所数

R1.9末

居宅介護支援・小規模多機能型等	15
地域密着型サービス	17

5. 高齢化の状況

高齢化率(28.3%)は全市と比較すると低い値である。町別にみると美原4丁目(38.7%)、美原5丁目(36.9%)は全市より高いのに対し、石川町(17.0%)は低い等、地区によって特徴が明確化している。

昭和50年代から段階的にニュータウン化した地域であり、同世代の住民が一斉に高齢化するといった特徴のある地区も多い。急激に高齢化が進んできた地区からの深刻化した相談も多い状況にあり、今後は他の地区でも同様のことが発生していく可能性が高いと言える。

6. 住民活動の関心に関する状況

多世代での活動や取り組みを実施している地区もあるが、多くの町会では高齢者のみでの活動が多いと言える。圏域内の町会の加入率(43.4%)は全市の加入率(54.9%)(※)と比較してとても低い状況であり、圏域内の地域ケア会議でも、町会加入率の低下、担い手不足や役員の世代交代等が問題として上がっている。また、住民の交流がほとんどなく、見守り体制が極端に脆弱な地区もある。

前期高齢者(51.4%)の割合が高く、介護予防への意識が高い住民が多い一方で、「今更感がある」「『担いたい』ではなく『手伝いたい』である」等の声もあり、地域活動のリーダー的な存在が少ないといった特徴もある。

※全市町会役員名簿(平成30年度版)より

7. 家庭を取り巻く状況

全市と比較すると高齢者世帯(単身世帯と高齢者のみ世帯)の割合が低く、高齢者以外との同居率が高い。「家族の介護力がある」という強みがある一方で、8050問題と言われるような「高齢の親と障がいのある子の世帯」や「高齢の親と無職の子がいる世帯」からの相談が増えている。障がいがある子の場合には、制度の壁による情報共有の難しさがあつたり、無職の子に関しては自ら支援を望むことが少ないことも起因して家庭内の問題が潜在化しやすく、相談を受けた際には複数の問題を抱えている場合も多い。

早期に相談を受ける体制や制度をまたいだ関係機関での連携体制の構築が必要と言える。

8. 地域ケア会議を中心とした日常生活圏域レベルの地域課題の整理

優先順位	地域の問題	問題が生じている要因	地域課題
1-1	民生児童委員（以下「民生委員」という。）や在宅福祉委員の見守りがある一方で、住民同士の関係の希薄化により見守りの概念が乏しい。	<ul style="list-style-type: none"> ・相談先を知らない。 ・相談するハードルが高い。 ・異変や困りごとに気づいても『誰かが通報するだろう』という関心の低さがある。（他人事） ・地域の担い手と無関心層の差が大きい。 	『地域に関心があり異変に気付いてはいるが相談までに至っていない方』が、相談につなげる等のアクションを起こすことができる。
1-2	昭和50年代にニュータウン化が進み、20年以上住んでいる方が多い。同世代の住民が一斉に高齢化し、相談が頻回にある地区もある。		
2	健康で地域の担い手になりうる前期高齢者が多い地域ではあるが、それを活かす手段や場が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> ・『手伝いたい』であり『担いたい』までには至らない。 ・活動のノウハウがない。 ・地域で活動したい住民へのバックアップ体制が不十分である。 	地域で活動したいと思っている住民が、活動・活躍する場ができる。
3	親と障がいのある子や無職の子がいる世帯からの相談が増えているが、問題が潜在化しやすい。	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との連携が不十分である。（平時から意識共有が持てる関係にない） ・親子間で共依存的になっておりSOSを発信しない。（できていない） 	関係機関との連携を強化することで、複合的な問題や困りごとを抱えた世帯へ早期に介入できる。

9. そのほか地域の現状やニーズに基づく地域課題

	地域の問題・要因	地域課題
—	<p>商業地帯を中心とした地区は公共交通機関が充実しているが、外出（移動）手段が不自由な地区もある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・亀田中野町等ではバスが1日に6本しかない状況である。 ・日常生活上車が必要であり、高齢になっても免許返納できない環境にある。 	※要因を分析できるまでの根拠・データが少ない。本年度以降も情報収集が必要である。

重点活動

	地域課題	各業務での取組み
1	『地域に関心があり異変に気付いてはいるが相談までに至っていない方』が、相談につなげる等のアクションを起こすことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・広報紙の内容を工夫し、効果的に広報できる配布先へ設置する。（亀田交流プラザ等） ・市内の地域包括支援センター（以下「センター」という。）との情報共有・連携により、効果的に広報する。 ・安否確認や孤立死の相談対応後は対応の振り返りを行い、再発防止策を検討する。 ・出前講座等を活用し、見守りや相談することの重要性について発信する。
2	関係機関との連携を強化することで、複合的な課題を持った世帯へ早期に介入できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい福祉関係機関等と連携した研修会等を企画する。 ・ネットワークを構築する機関を拡大・強化する。（精神保健福祉士協会や障がい者相談支援事業所、生活困窮自立支援担当等）
3	子どもや子育て世代の交流が少なく地域の見守り体制が弱いと思われる地区で、生活支援コーディネーター活動を開始する。	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援コーディネーター業務の第2層協議体の設置に向けて、周知や懇談会等を通して住民、関係機関等と地域課題の発見や意識醸成等の協働を図っていく。

① 包括的支援事業

ア 地域包括支援センターの運営

(ア) 総合相談支援業務

【根拠法令】介護保険法115条の4第2項第1号

【目的】地域の高齢者等が住み慣れた地域で安心してその人らしい生活を継続していくことができるよう、地域における関係者とのネットワークを構築するとともに、高齢者等の心身の状況や生活実態、必要な支援等を幅広く把握し、相談を受け、地域における適切な保健・医療・福祉サービス、関係機関または制度の利用につなげる等の支援を行う。

事業内容	令和元年度 活動評価																																																																																																																					
	実績	評価																																																																																																																				
地域包括支援ネットワーク構築	<p>○ネットワーク構築機関と方法</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>機関名</th> <th>方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>民生児童委員</td> <td>民生児童委員協議会定例会 個別相談対応等</td> </tr> <tr> <td>在宅福祉委員</td> <td>在宅福祉ふれあい事業 事業の打ち合わせ会議 懇談会等</td> </tr> <tr> <td>町会</td> <td>町会活動の参加や支援等</td> </tr> <tr> <td>介護保険事業所</td> <td>運営推進会議等</td> </tr> <tr> <td>学校・教育関係者</td> <td>広報紙配布や地域ケア会議等</td> </tr> <tr> <td>障がい事業所</td> <td>個別相談対応等</td> </tr> <tr> <td>職能団体</td> <td>懇談会や勉強会等</td> </tr> <tr> <td>その他関係機関</td> <td>各事業や活動を通して</td> </tr> </tbody> </table>	機関名	方法	民生児童委員	民生児童委員協議会定例会 個別相談対応等	在宅福祉委員	在宅福祉ふれあい事業 事業の打ち合わせ会議 懇談会等	町会	町会活動の参加や支援等	介護保険事業所	運営推進会議等	学校・教育関係者	広報紙配布や地域ケア会議等	障がい事業所	個別相談対応等	職能団体	懇談会や勉強会等	その他関係機関	各事業や活動を通して	<p>圏域を大きく3つの地区に分け、担当者を配置して活動することで民生委員、町会役員、在宅福祉委員等との顔の見える関係づくりを継続的に実施した。これまで相談のなかった新たな民生委員等から問い合わせや相談があり、ネットワーク構築の効果と評価する。</p> <p>障がい事業所との連携強化を計画したが、個別のケースの連携対応に留まり、研修等の事業参画は実施できず十分な連携強化には至らなかった。</p>																																																																																																		
機関名	方法																																																																																																																					
民生児童委員	民生児童委員協議会定例会 個別相談対応等																																																																																																																					
在宅福祉委員	在宅福祉ふれあい事業 事業の打ち合わせ会議 懇談会等																																																																																																																					
町会	町会活動の参加や支援等																																																																																																																					
介護保険事業所	運営推進会議等																																																																																																																					
学校・教育関係者	広報紙配布や地域ケア会議等																																																																																																																					
障がい事業所	個別相談対応等																																																																																																																					
職能団体	懇談会や勉強会等																																																																																																																					
その他関係機関	各事業や活動を通して																																																																																																																					
総合相談	<p>○新規相談件数 ※（ ）はR2.3末時点の見込み数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1.12末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ケース数</td> <td>654件</td> <td>637件</td> <td>554件 (739)</td> </tr> </tbody> </table> <p>○対象者の世帯構成</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1.12末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>独居</td> <td>204件</td> <td>229件</td> <td>198件 (264)</td> </tr> <tr> <td>高齢夫婦</td> <td>128件</td> <td>170件</td> <td>139件 (185)</td> </tr> <tr> <td>同居</td> <td>172件</td> <td>150件</td> <td>144件 (192)</td> </tr> <tr> <td>施設</td> <td>21件</td> <td>21件</td> <td>18件 (24)</td> </tr> <tr> <td>その他・不明・匿名</td> <td>129件</td> <td>67件</td> <td>55件 (74)</td> </tr> </tbody> </table> <p>○対象者の住所</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1.12末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>美原1～5丁目</td> <td>266件</td> <td>285件</td> <td>241件 (321)</td> </tr> <tr> <td>昭和1～4丁目</td> <td>161件</td> <td>166件</td> <td>138件 (184)</td> </tr> <tr> <td>赤川・亀田中野</td> <td>68件</td> <td>59件</td> <td>58件 (78)</td> </tr> <tr> <td>石川</td> <td>42件</td> <td>43件</td> <td>40件 (53)</td> </tr> <tr> <td>北美原</td> <td>46件</td> <td>30件</td> <td>35件 (47)</td> </tr> <tr> <td>その他・不明・匿名</td> <td>71件</td> <td>54件</td> <td>42件 (56)</td> </tr> </tbody> </table> <p>○町別の高齢者人口</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1.12末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>美原1～5丁目</td> <td>4,189人</td> <td>4,210人</td> <td>4,237人</td> </tr> <tr> <td>昭和1～4丁目</td> <td>2,799人</td> <td>2,835人</td> <td>2,858人</td> </tr> <tr> <td>赤川・亀田中野</td> <td>1,345人</td> <td>1,342人</td> <td>1,328人</td> </tr> <tr> <td>石川</td> <td>835人</td> <td>883人</td> <td>887人</td> </tr> <tr> <td>北美原</td> <td>1,079人</td> <td>1,136人</td> <td>1,179人</td> </tr> </tbody> </table> <p>○総合相談対応件数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1.12末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実件数</td> <td>894件</td> <td>958件</td> <td>797件 (1,063)</td> </tr> <tr> <td>延件数</td> <td>1,250件</td> <td>1,410件</td> <td>1,086件 (1,448)</td> </tr> </tbody> </table> <p>○相談形態内訳 (延)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1.12末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>面接</td> <td>77件</td> <td>110件</td> <td>94件 (125)</td> </tr> <tr> <td>電話</td> <td>435件</td> <td>543件</td> <td>405件 (540)</td> </tr> <tr> <td>訪問</td> <td>704件</td> <td>734件</td> <td>574件 (765)</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>34件</td> <td>23件</td> <td>13件 (18)</td> </tr> </tbody> </table>		H29	H30	R1.12末	ケース数	654件	637件	554件 (739)		H29	H30	R1.12末	独居	204件	229件	198件 (264)	高齢夫婦	128件	170件	139件 (185)	同居	172件	150件	144件 (192)	施設	21件	21件	18件 (24)	その他・不明・匿名	129件	67件	55件 (74)		H29	H30	R1.12末	美原1～5丁目	266件	285件	241件 (321)	昭和1～4丁目	161件	166件	138件 (184)	赤川・亀田中野	68件	59件	58件 (78)	石川	42件	43件	40件 (53)	北美原	46件	30件	35件 (47)	その他・不明・匿名	71件	54件	42件 (56)		H29	H30	R1.12末	美原1～5丁目	4,189人	4,210人	4,237人	昭和1～4丁目	2,799人	2,835人	2,858人	赤川・亀田中野	1,345人	1,342人	1,328人	石川	835人	883人	887人	北美原	1,079人	1,136人	1,179人		H29	H30	R1.12末	実件数	894件	958件	797件 (1,063)	延件数	1,250件	1,410件	1,086件 (1,448)		H29	H30	R1.12末	面接	77件	110件	94件 (125)	電話	435件	543件	405件 (540)	訪問	704件	734件	574件 (765)	その他	34件	23件	13件 (18)	<p>新規相談件数は、平成29年度比111.3%、平成30年度比116.0%と増加した。相談者の内訳として、医療機関、行政機関からの相談が増加傾向にある。</p> <p>土曜日開所とその周知により、家族からの相談が、平成29年度比116.6%、平成30年度比107.8%と増加した。</p> <p>知人・近隣からの相談も増加しており、地域住民へのセンターの広報・啓発活動の効果と思われる。</p> <p>不明・匿名の方からの相談も増加傾向にあり、「具体的な相談には至らないが聞いておきたい」等、早めの相談や問い合わせが増えていると思われる。</p> <p>相談内容の内訳では介護保険・総合事業の他、認知症の相談が増えており、認知症に関する広報・啓発や事業展開が重要である。</p> <p>職員の相談援助技術のスキルアップを図り、相談を受けた際は入り口から終結まで適切に支援できていると評価をする。</p>
	H29	H30	R1.12末																																																																																																																			
ケース数	654件	637件	554件 (739)																																																																																																																			
	H29	H30	R1.12末																																																																																																																			
独居	204件	229件	198件 (264)																																																																																																																			
高齢夫婦	128件	170件	139件 (185)																																																																																																																			
同居	172件	150件	144件 (192)																																																																																																																			
施設	21件	21件	18件 (24)																																																																																																																			
その他・不明・匿名	129件	67件	55件 (74)																																																																																																																			
	H29	H30	R1.12末																																																																																																																			
美原1～5丁目	266件	285件	241件 (321)																																																																																																																			
昭和1～4丁目	161件	166件	138件 (184)																																																																																																																			
赤川・亀田中野	68件	59件	58件 (78)																																																																																																																			
石川	42件	43件	40件 (53)																																																																																																																			
北美原	46件	30件	35件 (47)																																																																																																																			
その他・不明・匿名	71件	54件	42件 (56)																																																																																																																			
	H29	H30	R1.12末																																																																																																																			
美原1～5丁目	4,189人	4,210人	4,237人																																																																																																																			
昭和1～4丁目	2,799人	2,835人	2,858人																																																																																																																			
赤川・亀田中野	1,345人	1,342人	1,328人																																																																																																																			
石川	835人	883人	887人																																																																																																																			
北美原	1,079人	1,136人	1,179人																																																																																																																			
	H29	H30	R1.12末																																																																																																																			
実件数	894件	958件	797件 (1,063)																																																																																																																			
延件数	1,250件	1,410件	1,086件 (1,448)																																																																																																																			
	H29	H30	R1.12末																																																																																																																			
面接	77件	110件	94件 (125)																																																																																																																			
電話	435件	543件	405件 (540)																																																																																																																			
訪問	704件	734件	574件 (765)																																																																																																																			
その他	34件	23件	13件 (18)																																																																																																																			

令和2年度 活動計画

事業目標	計画	評価指標
<p>障がい事業所との連携体制を強化する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多職種を対象とした研修会を企画し、障がい事業所を参集する。 ・研修会は、権利擁護ケースの検討や、互いの機能・役割について理解を深める内容とする。 ・障がい事業所が既に対応しているケースの世帯に支援が必要な高齢者がいる場合に、早期相談や連携することの重要性を周知する。 ・地域ケア会議やケースカンファレンスに障がい事業所を参集し、検討・懇談を行うとともに、ネットワークの構築・強化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会の開催内容 ・懇談の内容 ・障がい事業所との連携を強化できたか
<p>ワンストップかつ迅速に相談対応することで、支援が必要な高齢者が適切な支援や制度・資源につながる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相談受付後、可能な限り訪問面談を行い、相談内容以外の潜在している問題や課題にも着眼して、その解消・解決や目標の達成に向けて支援をする。 ・地域包括支援ネットワークを活用し、専門機関、対応窓口、制度や資源等につなぐとともに、継続的な支援をする。 ・毎日、センター内で受け付けた相談内容とその支援方針を報告・共有するとともに、必要時是对応方針を検討してチームとして支援をする。 ・センター内でのミーティング・勉強会・事例検討等により、情報共有や職員個々のスキルアップを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規相談件数 ・相談者の内訳 ・相談内容の内訳 ・町別高齢者100人あたりの新規相談件数

(7) 総合相談支援業務

事業内容	令和元年度 活動評価																																															
	実績			評価																																												
総合相談	○対象者の年齢内訳（実）			<p>町別にみると、高齢者100人あたりの新規相談件数は、美原1~5丁目（7.6件）が圧倒的に多く、次いで昭和1~4丁目（6.4件）となっている。</p> <p>最も相談の少ない北美原（4.0件）や次点の石川（5.3件）は同居率の高い地域であり、家族が介護や支援を担っていることから、家族（子）への相談窓口の周知が必要と思われる。</p> <p>令和元年度は、地域課題の整理により「深刻化・多重化してからの相談が多い小地域」を中心に広報紙の新規配布先を開拓した。</p> <p>対象を絞った広報紙の配布先の検討も行い、153機関に約2,500部を配布することができた。</p> <p>広報紙の配布とあわせてポスター掲示を依頼し、多くの住民に『広く浅く』でもセンターの役割を知ってもらうよう対応をした。</p> <p>広報紙とあわせて住所別センター逆引き表を配布し、担当のセンターを簡単に検索できるよう対応した。</p> <p>これまで発行した広報紙をホームページにも掲載し、圏域に限らず多くの方が閲覧できるよう対応した。</p> <p>出前講座や講師派遣においては、これまで実施した団体のほか、新たな団体からの依頼も受けた。講座内容が難しい場合は、寸劇やクイズを交えることで、分かりやすく理解できるよう対応した。</p> <p>平成30年度に引き続き、小中学校と一部の高等学校に広報紙を配布するとともに、認知症サポーター養成講座の活用を依頼した結果、高等支援学校での開催につながった。</p>																																												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1.12末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>65歳以上</td> <td>858件</td> <td>931件</td> <td>768件 (1,024)</td> </tr> <tr> <td>65歳未満</td> <td>36件</td> <td>27件</td> <td>29件 (39)</td> </tr> </tbody> </table>					H29	H30	R1.12末	65歳以上	858件	931件	768件 (1,024)	65歳未満	36件	27件	29件 (39)																																
		H29	H30		R1.12末																																											
	65歳以上	858件	931件		768件 (1,024)																																											
	65歳未満	36件	27件		29件 (39)																																											
	○相談者の続柄内訳（重複あり）																																															
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1.12末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本人</td> <td>540件</td> <td>656件</td> <td>508件 (677)</td> </tr> <tr> <td>家族親族</td> <td>416件</td> <td>450件</td> <td>364件 (485)</td> </tr> <tr> <td>民生委員</td> <td>26件</td> <td>43件</td> <td>32件 (43)</td> </tr> <tr> <td>町会・在宅福祉</td> <td>7件</td> <td>6件</td> <td>2件 (3)</td> </tr> <tr> <td>知人・近隣</td> <td>12件</td> <td>17件</td> <td>26件 (35)</td> </tr> <tr> <td>ケアマネジャー</td> <td>120件</td> <td>126件</td> <td>113件 (151)</td> </tr> <tr> <td>介護保険事業所</td> <td>38件</td> <td>27件</td> <td>26件 (35)</td> </tr> <tr> <td>医療機関</td> <td>82件</td> <td>110件</td> <td>76件 (101)</td> </tr> <tr> <td>行政機関</td> <td>27件</td> <td>2件</td> <td>35件 (47)</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>27件</td> <td>30件</td> <td>23件 (31)</td> </tr> </tbody> </table>					H29	H30	R1.12末	本人	540件	656件	508件 (677)	家族親族	416件	450件	364件 (485)	民生委員	26件	43件	32件 (43)	町会・在宅福祉	7件	6件	2件 (3)	知人・近隣	12件	17件	26件 (35)	ケアマネジャー	120件	126件	113件 (151)	介護保険事業所	38件	27件	26件 (35)	医療機関	82件	110件	76件 (101)	行政機関	27件	2件	35件 (47)	その他	27件	30件	23件 (31)
		H29	H30		R1.12末																																											
	本人	540件	656件		508件 (677)																																											
	家族親族	416件	450件		364件 (485)																																											
	民生委員	26件	43件		32件 (43)																																											
	町会・在宅福祉	7件	6件		2件 (3)																																											
	知人・近隣	12件	17件		26件 (35)																																											
	ケアマネジャー	120件	126件		113件 (151)																																											
	介護保険事業所	38件	27件		26件 (35)																																											
医療機関	82件	110件	76件 (101)																																													
行政機関	27件	2件	35件 (47)																																													
その他	27件	30件	23件 (31)																																													
○相談内容内訳（重複あり）																																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1.12末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>介護保険・総合事業</td> <td>780件</td> <td>904件</td> <td>751件 (1,001)</td> </tr> <tr> <td>保健福祉サービス</td> <td>152件</td> <td>157件</td> <td>119件 (159)</td> </tr> <tr> <td>介護予防</td> <td>57件</td> <td>60件</td> <td>40件 (53)</td> </tr> <tr> <td>健康</td> <td>24件</td> <td>58件</td> <td>63件 (84)</td> </tr> <tr> <td>認知症</td> <td>78件</td> <td>114件</td> <td>90件 (120)</td> </tr> <tr> <td>住まい</td> <td>60件</td> <td>73件</td> <td>60件 (80)</td> </tr> <tr> <td>権利擁護</td> <td>17件</td> <td>17件</td> <td>29件 (39)</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>169件</td> <td>201件</td> <td>97件 (129)</td> </tr> </tbody> </table>				H29	H30	R1.12末	介護保険・総合事業	780件	904件	751件 (1,001)	保健福祉サービス	152件	157件	119件 (159)	介護予防	57件	60件	40件 (53)	健康	24件	58件	63件 (84)	認知症	78件	114件	90件 (120)	住まい	60件	73件	60件 (80)	権利擁護	17件	17件	29件 (39)	その他	169件	201件	97件 (129)										
	H29	H30	R1.12末																																													
介護保険・総合事業	780件	904件	751件 (1,001)																																													
保健福祉サービス	152件	157件	119件 (159)																																													
介護予防	57件	60件	40件 (53)																																													
健康	24件	58件	63件 (84)																																													
認知症	78件	114件	90件 (120)																																													
住まい	60件	73件	60件 (80)																																													
権利擁護	17件	17件	29件 (39)																																													
その他	169件	201件	97件 (129)																																													
○広報紙による広報啓発																																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1.12末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>発行回数</td> <td>3回</td> <td>3回</td> <td>2回 (3)</td> </tr> <tr> <td>発行部数</td> <td>2,102部</td> <td>2,309部</td> <td>2,493部 (2,520)</td> </tr> <tr> <td>配布機関数</td> <td>107</td> <td>139</td> <td>153機関 (163)</td> </tr> <tr> <td>新規機関数</td> <td>14</td> <td>37</td> <td>11機関 (17)</td> </tr> </tbody> </table>				H29	H30	R1.12末	発行回数	3回	3回	2回 (3)	発行部数	2,102部	2,309部	2,493部 (2,520)	配布機関数	107	139	153機関 (163)	新規機関数	14	37	11機関 (17)																										
	H29	H30	R1.12末																																													
発行回数	3回	3回	2回 (3)																																													
発行部数	2,102部	2,309部	2,493部 (2,520)																																													
配布機関数	107	139	153機関 (163)																																													
新規機関数	14	37	11機関 (17)																																													
○広報紙による周知（R2.3は予定）																																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R1.08</td> <td>センターについて 認知症について</td> </tr> <tr> <td>R1.12</td> <td>センターについて 介護保険について</td> </tr> <tr> <td>R2.3</td> <td>センターについて 住宅改修について 在宅高齢者等サービスについて</td> </tr> </tbody> </table>			時期	内 容	R1.08	センターについて 認知症について	R1.12	センターについて 介護保険について	R2.3	センターについて 住宅改修について 在宅高齢者等サービスについて																																						
時期	内 容																																															
R1.08	センターについて 認知症について																																															
R1.12	センターについて 介護保険について																																															
R2.3	センターについて 住宅改修について 在宅高齢者等サービスについて																																															
○広報紙の新規配布機関（R1.12発行時点）																																																
<p>スーパー（1）、蕎麦屋（1）、銀行（1）、郵便局（1） 薬局（1）、温泉（1）、新聞販売店（4）、地域支援グループ（1）、学童保育（1）、保育園（1）、医療機関（1）、パチンコ店（3）</p>																																																
○ポスターによる周知																																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>掲示機関</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>48機関</td> </tr> </tbody> </table>				H29	H30	R1	掲示機関	—	—	48機関																																						
	H29	H30	R1																																													
掲示機関	—	—	48機関																																													

事業目標	計画	評価指標
<p>多くの住民が、相談機関としてのセンターを知ることができる。</p> <p>相談者の続柄『知人・近隣』『その他』からの相談や問い合わせを増やす。</p>	<p>【広報紙の発行】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より幅の広い年齢層が目にとまり、浅くでもセンターの役割を知ることができるよう、4コママンガの掲載や色合い、記事の内容を工夫する。 ・多くの住民が利用する機関（スーパー、コンビニ、郵便局、銀行、薬局、教育関係者、美容室等）へ配布する。 ・新規配布先への依頼については、「多くの住民の利用がある」「一定時間滞在する場所であり、手に取るきっかけがある」等、具体的な効果を検討・想定して実施する。 ・町会へは回覧板での回覧を依頼する。 ・民生委員へは民生児童委員協議会定例会で配布し、ネットワークの強化もあわせて行う。 ・ポスターの掲示状況を把握し、必要に応じて内容を更新することで多くの住民に広く浅くでもセンターの役割を周知する。 <p>【出前講座の開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催の際はセンターの役割について必ず周知することで、「相談することへのハードル」を下げる工夫する。 ・各団体や機関から講座開催の依頼を受けるとともに、未開催の地域への広報や働きかけを行う。 ・未開催の団体や機関に向けて広報・周知し、出前講座の新規開催を企画する。 <p>【広報・啓発の効果の検証】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような手段でセンターを知り相談したかを集計・分析し、周知方法の効果を検証する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談者の続柄『知人・近隣』『その他』からの相談件数 ・広報紙の発行回数 ・広報紙の内容 ・広報紙の新規配布機関 ・ポスター掲示状況 ・出前講座の開催内容 ・出前講座の開催機関（特に新規機関）数 ・相談者がセンターを知ったルートの集計・分析

(7) 総合相談支援業務

事業内容	令和元年度 活動評価																																																						
	実績	評価																																																					
総合相談	<p>○総合相談にかかる出前講座・リーフレット配布の機関</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>内 容</th> <th>機関名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">センター業務</td> <td>新婦人の会</td> </tr> <tr> <td>赤川町在宅福祉委員</td> </tr> <tr> <td>昭和在宅福祉委員</td> </tr> <tr> <td>石川町会</td> </tr> <tr> <td>典礼社</td> </tr> <tr> <td>サ高住亀田日和</td> </tr> <tr> <td>函館市町会連合会</td> </tr> <tr> <td>函館市町会連合会</td> </tr> <tr> <td>※老人クラブ美原福寿会</td> </tr> <tr> <td>※美原老人福祉センター</td> </tr> <tr> <td>※渡島振興局</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">介護保険・総合事業</td> <td>昭和在宅福祉委員</td> </tr> <tr> <td>亀田病院</td> </tr> <tr> <td>※美原老人福祉センター</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">高齢期の住まい</td> <td>新婦人の会</td> </tr> <tr> <td>北美原町会女性部</td> </tr> </tbody> </table> <p>※はR2.1以降の開催機関</p>	内 容	機関名	センター業務	新婦人の会	赤川町在宅福祉委員	昭和在宅福祉委員	石川町会	典礼社	サ高住亀田日和	函館市町会連合会	函館市町会連合会	※老人クラブ美原福寿会	※美原老人福祉センター	※渡島振興局	介護保険・総合事業	昭和在宅福祉委員	亀田病院	※美原老人福祉センター	高齢期の住まい	新婦人の会	北美原町会女性部																																	
内 容	機関名																																																						
センター業務	新婦人の会																																																						
	赤川町在宅福祉委員																																																						
	昭和在宅福祉委員																																																						
	石川町会																																																						
	典礼社																																																						
	サ高住亀田日和																																																						
	函館市町会連合会																																																						
	函館市町会連合会																																																						
	※老人クラブ美原福寿会																																																						
	※美原老人福祉センター																																																						
※渡島振興局																																																							
介護保険・総合事業	昭和在宅福祉委員																																																						
	亀田病院																																																						
	※美原老人福祉センター																																																						
高齢期の住まい	新婦人の会																																																						
	北美原町会女性部																																																						
安否確認、孤立防止	<p>○安否確認</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1.12末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>安否確認要請件数</td> <td>7件</td> <td>3件</td> <td>7件</td> </tr> <tr> <td>生存確認</td> <td>6件</td> <td>2件</td> <td>4件</td> </tr> <tr> <td>死亡発見</td> <td>0件</td> <td>1件</td> <td>2件</td> </tr> <tr> <td>不明</td> <td>1件</td> <td>0件</td> <td>1件</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>相談者</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1.12末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>家族</td> <td>1件</td> <td>2件</td> <td>0件</td> </tr> <tr> <td>民生委員 在宅福祉委員</td> <td>2件</td> <td>0件</td> <td>4件</td> </tr> <tr> <td>行政・警察</td> <td>1件</td> <td>0件</td> <td>1件</td> </tr> <tr> <td>介護保険事業所</td> <td>1件</td> <td>0件</td> <td>1件</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>2件</td> <td>1件</td> <td>1件</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>7件</td> <td>3件</td> <td>7件</td> </tr> </tbody> </table>		H29	H30	R1.12末	安否確認要請件数	7件	3件	7件	生存確認	6件	2件	4件	死亡発見	0件	1件	2件	不明	1件	0件	1件	相談者	H29	H30	R1.12末	家族	1件	2件	0件	民生委員 在宅福祉委員	2件	0件	4件	行政・警察	1件	0件	1件	介護保険事業所	1件	0件	1件	その他	2件	1件	1件	合計	7件	3件	7件	<p>高齢者の安否確認の要請がセンターに入 ることは例年あるものの、令和元年度は民 生委員から安否確認の相談を受ける事が多 かった。うち2件は死亡発見となっている。 亡くなってから近隣住民に話を聞くと 「おかしいと思っていた」と異変に気付き ながらも、通報せずにいたことが分かっ た。 相談のハードルを下げることで、孤立死 のリスクが軽減できる可能性があり、その 取り組みが必要であると思われる。</p>					
	H29	H30	R1.12末																																																				
安否確認要請件数	7件	3件	7件																																																				
生存確認	6件	2件	4件																																																				
死亡発見	0件	1件	2件																																																				
不明	1件	0件	1件																																																				
相談者	H29	H30	R1.12末																																																				
家族	1件	2件	0件																																																				
民生委員 在宅福祉委員	2件	0件	4件																																																				
行政・警察	1件	0件	1件																																																				
介護保険事業所	1件	0件	1件																																																				
その他	2件	1件	1件																																																				
合計	7件	3件	7件																																																				
実態把握	<p>○利用者基本情報作成状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2">H29</th> <th colspan="2">H30</th> <th colspan="2">R1.12末</th> </tr> <tr> <th></th> <th>新規</th> <th></th> <th>新規</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標数値</td> <td>1,107件</td> <td>1,082件</td> <td>—</td> <td>1,067件</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">作成数</td> <td rowspan="3">予防給付</td> <td>409件</td> <td>353件</td> <td>81件</td> <td>290件 (387)</td> <td>38件 (51)</td> </tr> <tr> <td>見守り</td> <td>22件</td> <td>177件</td> <td>172件</td> <td>172件 (229)</td> <td>112件 (149)</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>515件</td> <td>454件</td> <td>254件</td> <td>352件 (469)</td> <td>119件 (265)</td> </tr> <tr> <td>合 計 (A)</td> <td>946件</td> <td>984件</td> <td>507件</td> <td>814件 (1,085)</td> <td>269件 (465)</td> </tr> <tr> <td>高齢者人口 (B)</td> <td>10,247</td> <td>10,406</td> <td>10,498</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>把握率 (A/B)</td> <td>9.2%</td> <td>9.5%</td> <td>7.8%</td> <td>(10.3)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		H29	H30		R1.12末			新規		新規	目標数値	1,107件	1,082件	—	1,067件	—	作成数	予防給付	409件	353件	81件	290件 (387)	38件 (51)	見守り	22件	177件	172件	172件 (229)	112件 (149)	その他	515件	454件	254件	352件 (469)	119件 (265)	合 計 (A)	946件	984件	507件	814件 (1,085)	269件 (465)	高齢者人口 (B)	10,247	10,406	10,498			把握率 (A/B)	9.2%	9.5%	7.8%	(10.3)		<p>実態把握数は見込数ではあるが、ほぼ目 標数値を達成できた。 『見守り』『その他』ともに増加の見込 みである。また、新規の実態把握はやや減 少しているが、新たな相談対応から実態把 握につながっている。 今後もアウトリーチの実践により実態把 握の積み上げの継続が重要であると考え る。</p>
	H29			H30		R1.12末																																																	
			新規		新規																																																		
目標数値	1,107件	1,082件	—	1,067件	—																																																		
作成数	予防給付	409件	353件	81件	290件 (387)	38件 (51)																																																	
		見守り	22件	177件	172件	172件 (229)	112件 (149)																																																
		その他	515件	454件	254件	352件 (469)	119件 (265)																																																
合 計 (A)	946件	984件	507件	814件 (1,085)	269件 (465)																																																		
高齢者人口 (B)	10,247	10,406	10,498																																																				
把握率 (A/B)	9.2%	9.5%	7.8%	(10.3)																																																			

令和2年度 活動計画

事業目標	計画	評価指標
<p>地域の担い手とのネットワークを強化する。</p> <p>住民に対して、相談機関としてのセンターを周知する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 民生児童委員協議会定例会や在宅福祉委員会の会議等への参加、研修会等への講師派遣により対応事例の紹介を行うとともにネットワークを強化する。 ・ 出前講座や広報紙などを通し、住民に見守りの視点や相談先を周知する。 ・ 安否確認及び孤立死の対応ケースを集計・分析し、再発予防の方法を検証する。 ・ 安否確認や孤立死の相談対応後は対応の振り返りを行い、必要な支援方法について検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相談件と相談者の内訳 ・ 地域の見守り等の周知数と方法 ・ 対応後の振り返り・再発防止策の協議
<p>実態把握件数が増加することにより、支援の必要な高齢者がシームレスな支援を受けることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合相談対応や高齢者見守りネットワーク事業、その他の活動（健康づくり教室やサロン等の集いの場、認知症地域支援推進員の活動等）により、生活状況や世帯状況、健康状態等について把握し、データ管理をする。 ・ データを基に地域課題を整理し、さまざまな事業・活動を実施する地域・内容・対象者等を決定する根拠として活用する。 ・ 高齢者見守りネットワーク事業で実態把握ができなかった対象者へのフォローについて検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者基本情報作成数と過年度比 ・ 利用者基本情報作成数と目標値の達成率 ・ 利用者基本情報の新規作成数と過年度比 ・ 利用者基本情報の新規作成数と目標値の達成率

(イ) 権利擁護業務

【根拠法令】介護保険法115条の4第2項第2号

【目的】高齢者等が地域において尊厳のある生活を維持し、安心して生活を行うことができるよう、専門的・継続的な視点から、高齢者等の権利擁護のため、必要な支援を行う。

事業内容	令和元年度 活動評価																																															
	実績	評価																																														
権利擁護相談 (高齢者虐待・困難事例への対応、成年後見制度の利用促進・消費者被害の防止に関する対応)	○権利擁護相談対応状況 ・対応件数 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1.12末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ケース数</td> <td>39件</td> <td>36件</td> <td>42件</td> </tr> <tr> <td> 医療と連携</td> <td>17件</td> <td>17件</td> <td>13件</td> </tr> <tr> <td>対応回数</td> <td>663件</td> <td>682件</td> <td>559件</td> </tr> </tbody> </table>		H29	H30	R1.12末	ケース数	39件	36件	42件	医療と連携	17件	17件	13件	対応回数	663件	682件	559件	総合相談の中では広報紙を見て連絡をしたとの相談を受けることもあるが、権利擁護ケースに関しては、相談件数にあまり影響は見られておらず、ケアマネジャーや本人、親族からの相談が多い状況が続いている。 孤立死と関係が深いセルフネグレクトなどは、近隣住民による早期発見や相談が重要であると考え。今後も地域住民へ相談機関としてセンターを周知し、権利擁護に関わる視点を持てるよう働きかけていく。 多世代交流サロン等での広報紙の配布や相談先の周知なども行っているが、多世代からの相談数が増えているかは未確認である。 通報者の内訳として、医療機関が徐々に増えているが、医療相談室が設置されている病院からの相談が多く、地域のクリニックから権利擁護に関わる相談はない状況である。 広報紙配布などによるクリニック訪問や、個別相談等は行っているが、相談が来ない背景について、検証することが必要であると思われる。 平成30年度と比較し、成年後見制度の相談が4.4倍となっている。成年後見センターへ相談をしたケースは5件で、うち3件はケース会議を行い、連携および役割分担して対応することができたと考え。 高齢者虐待として通報があったケースの数は例年と同程度だった。 コアメンバー会議の結果、高齢者虐待と判断されたケースはなかったが、養護関係がない場合や判断つかずのケースの場合には、困難事例として対応を継続している。 通報者はケアマネジャーが最も多いが、以前は疑いの時点での相談を迷い、問題が複雑化してからの通報もあったが、最近では『高齢者虐待の可能性がある』時点での通報が増えている印象がある。 早期通報により、問題が複雑化する前の対応ができ、結果、虐待と判断されるケースが減少しているのではないかと考える。 虐待者の続柄としては夫や息子等の男性介護者が多いため、特に男性介護者に対するアプローチが必要であると思われる。																														
		H29	H30	R1.12末																																												
	ケース数	39件	36件	42件																																												
	医療と連携	17件	17件	13件																																												
	対応回数	663件	682件	559件																																												
	・対応事案内訳(項目重複あり) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1.12末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高齢者虐待</td> <td>3件</td> <td>5件</td> <td>0件</td> </tr> <tr> <td> 終結数</td> <td>1件</td> <td>5件</td> <td>0件</td> </tr> <tr> <td> 終結率</td> <td>33.3%</td> <td>100.0%</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>セルフネグレクト</td> <td>0件</td> <td>0件</td> <td>0件</td> </tr> <tr> <td>成年後見等</td> <td>32件</td> <td>22件</td> <td>97件</td> </tr> <tr> <td>消費者被害</td> <td>3件</td> <td>0件</td> <td>1件</td> </tr> <tr> <td>困難事例</td> <td>286件</td> <td>250件</td> <td>269件</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>10件</td> <td>2件</td> <td>0件</td> </tr> </tbody> </table>		H29	H30	R1.12末	高齢者虐待	3件	5件	0件	終結数	1件	5件	0件	終結率	33.3%	100.0%	—		セルフネグレクト	0件	0件	0件	成年後見等	32件	22件	97件	消費者被害	3件	0件	1件	困難事例	286件	250件	269件	その他	10件	2件	0件										
		H29	H30	R1.12末																																												
	高齢者虐待	3件	5件	0件																																												
	終結数	1件	5件	0件																																												
	終結率	33.3%	100.0%	—																																												
セルフネグレクト	0件	0件	0件																																													
成年後見等	32件	22件	97件																																													
消費者被害	3件	0件	1件																																													
困難事例	286件	250件	269件																																													
その他	10件	2件	0件																																													
・相談者・通報者 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1.12末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ケアマネジャー</td> <td>47件</td> <td>42件</td> <td>38件</td> </tr> <tr> <td>介護保険事業所</td> <td>10件</td> <td>11件</td> <td>3件</td> </tr> <tr> <td>近隣住民・知人</td> <td>13件</td> <td>17件</td> <td>2件</td> </tr> <tr> <td>民生委員</td> <td>35件</td> <td>8件</td> <td>8件</td> </tr> <tr> <td>本人</td> <td>14件</td> <td>15件</td> <td>26件</td> </tr> <tr> <td>親族</td> <td>23件</td> <td>17件</td> <td>29件</td> </tr> <tr> <td>行政</td> <td>13件</td> <td>10件</td> <td>10件</td> </tr> <tr> <td>警察</td> <td>3件</td> <td>0件</td> <td>5件</td> </tr> <tr> <td>医療機関</td> <td>16件</td> <td>17件</td> <td>20件</td> </tr> <tr> <td>不明匿名</td> <td>0件</td> <td>0件</td> <td>0件</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>14件</td> <td>10件</td> <td>14件</td> </tr> </tbody> </table>		H29	H30	R1.12末	ケアマネジャー	47件	42件	38件	介護保険事業所	10件	11件	3件	近隣住民・知人	13件	17件	2件	民生委員	35件	8件	8件	本人	14件	15件	26件	親族	23件	17件	29件	行政	13件	10件	10件	警察	3件	0件	5件	医療機関	16件	17件	20件	不明匿名	0件	0件	0件	その他	14件	10件	14件
	H29	H30	R1.12末																																													
ケアマネジャー	47件	42件	38件																																													
介護保険事業所	10件	11件	3件																																													
近隣住民・知人	13件	17件	2件																																													
民生委員	35件	8件	8件																																													
本人	14件	15件	26件																																													
親族	23件	17件	29件																																													
行政	13件	10件	10件																																													
警察	3件	0件	5件																																													
医療機関	16件	17件	20件																																													
不明匿名	0件	0件	0件																																													
その他	14件	10件	14件																																													
・虐待疑いとして相談があったケース(R1.12末) 14件 <table border="1"> <thead> <tr> <th>通報者</th> <th>件数</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ケアマネジャー</td> <td>5件</td> <td>35.7%</td> </tr> <tr> <td>警察</td> <td>4件</td> <td>28.6%</td> </tr> <tr> <td>親族</td> <td>1件</td> <td>7.1%</td> </tr> <tr> <td>介護事業所</td> <td>1件</td> <td>7.1%</td> </tr> <tr> <td>行政</td> <td>1件</td> <td>7.1%</td> </tr> <tr> <td>民生委員</td> <td>1件</td> <td>7.1%</td> </tr> <tr> <td>虐待者</td> <td>1件</td> <td>7.1%</td> </tr> </tbody> </table>	通報者	件数	割合	ケアマネジャー	5件	35.7%	警察	4件	28.6%	親族	1件	7.1%	介護事業所	1件	7.1%	行政	1件	7.1%	民生委員	1件	7.1%	虐待者	1件	7.1%																								
通報者	件数	割合																																														
ケアマネジャー	5件	35.7%																																														
警察	4件	28.6%																																														
親族	1件	7.1%																																														
介護事業所	1件	7.1%																																														
行政	1件	7.1%																																														
民生委員	1件	7.1%																																														
虐待者	1件	7.1%																																														
虐待者の続柄 <table border="1"> <thead> <tr> <th>続柄</th> <th>件数</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>夫(同居)</td> <td>4件</td> <td>28.6%</td> </tr> <tr> <td>息子(同居)</td> <td>3件</td> <td>21.4%</td> </tr> <tr> <td>息子(別居)</td> <td>2件</td> <td>14.3%</td> </tr> <tr> <td>娘(同居)</td> <td>2件</td> <td>14.3%</td> </tr> <tr> <td>娘(別居)</td> <td>1件</td> <td>7.1%</td> </tr> <tr> <td>妻(同居)</td> <td>1件</td> <td>7.1%</td> </tr> <tr> <td>その他(重複あり)</td> <td>2件</td> <td>14.3%</td> </tr> </tbody> </table>	続柄	件数	割合	夫(同居)	4件	28.6%	息子(同居)	3件	21.4%	息子(別居)	2件	14.3%	娘(同居)	2件	14.3%	娘(別居)	1件	7.1%	妻(同居)	1件	7.1%	その他(重複あり)	2件	14.3%																								
続柄	件数	割合																																														
夫(同居)	4件	28.6%																																														
息子(同居)	3件	21.4%																																														
息子(別居)	2件	14.3%																																														
娘(同居)	2件	14.3%																																														
娘(別居)	1件	7.1%																																														
妻(同居)	1件	7.1%																																														
その他(重複あり)	2件	14.3%																																														
内容 <table border="1"> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>件数</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>虐待ではない</td> <td>5件</td> <td>35.7%</td> </tr> <tr> <td>養護関係なし</td> <td>4件</td> <td>28.6%</td> </tr> <tr> <td>判断つかず</td> <td>5件</td> <td>35.7%</td> </tr> </tbody> </table>	内容	件数	割合	虐待ではない	5件	35.7%	養護関係なし	4件	28.6%	判断つかず	5件	35.7%																																				
内容	件数	割合																																														
虐待ではない	5件	35.7%																																														
養護関係なし	4件	28.6%																																														
判断つかず	5件	35.7%																																														

令和2年度 活動計画		
事業目標	計画	評価指標
<p>新たにネットワーク構築した機関へ、センターが権利擁護に関する相談機関であることを周知する。</p> <p>クリニックからの相談件数の増加に向けて、現在の連携状況を把握・検証する。</p> <p>住民が成年後見制度について知る機会を持つ。</p> <p>ケアマネジャーおよび介護保険サービス事業所職員が、高齢者虐待に早期に気づき、相談できる関係を構築する。</p> <p>男性介護者の負担軽減を図るための事業を周知する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度、新たにネットワーク構築ができた機関（学童保育所等）への広報紙配布及び、相談機関である旨を周知する。 どのような手段でセンターを知り、相談したか等を分析し、効果的な周知方法を探る。 圏域内のクリニックへの広報紙の配布を通し、定期的に訪問する。 連携が効果的であると考えられる職種および担当者について分析する。 成年後見制度の利用が必要な対象者については、法テラスや成年後見センターと連携を持ち、対応にあたる。 成年後見制度について、住民向けの出前講座を開催し、制度および相談機関を周知する。 出前講座や認知症カフェなどの場を活用し、成年後見制度についての理解度と地域のニーズについてのアンケートを実施し、制度の効果的な活用や周知の方法を検証する。 ケアマネジャーおよび介護保険サービス事業所に対し、高齢者虐待についての出前講座やリーフレットの配布を行い、早期通報の必要性を周知する。 実際に高齢者へ関わる介護職員に対して、研修や出前講座を行う。 虐待および虐待疑いケースに関しては、終結時に関係者と振り返りを行い、通報者（特にケアマネジャー）が抱えた不安等の聞き取りを行うことで、通報しやすい環境の整備や周知の方法につなげる。 対象世帯に対して、男性家族介護者の集いや、高齢福祉課の家族介護支援相談窓口等の周知を行い、介護ストレスの軽減について情報提供する。 	<p>○権利擁護相談対応状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対応件数 ・対応事案内訳 ・相談・通報者内訳 ・ネットワーク構築 ・広報・啓発活動 <p>○高齢者虐待対応状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通報件数 ・通報者内訳 ・虐待実件数 ・終結件数（率） ・広報・啓発回数

(イ) 権利擁護業務

事業内容	令和元年度 活動評価																																				
	実績	評価																																			
権利擁護業務に関するネットワーク構築	<p>・ 困難事例概要（重複あり）（R1.12末）</p> <table border="1"> <tr><td>認知症</td><td>20件</td></tr> <tr><td>知的がい</td><td>1件</td></tr> <tr><td>精神障害等</td><td>5件</td></tr> <tr><td>支援拒否</td><td>3件</td></tr> <tr><td>急激なADL低下</td><td>6件</td></tr> <tr><td>独居等</td><td>13件</td></tr> <tr><td>家族等の問題</td><td>18件</td></tr> <tr><td>サービス依存</td><td>0件</td></tr> <tr><td>医療の問題</td><td>8件</td></tr> <tr><td>アルコール</td><td>5件</td></tr> <tr><td>薬物</td><td>0件</td></tr> <tr><td>経済困窮</td><td>12件</td></tr> <tr><td>苦情</td><td>4件</td></tr> <tr><td>その他</td><td>4件</td></tr> </table>	認知症	20件	知的がい	1件	精神障害等	5件	支援拒否	3件	急激なADL低下	6件	独居等	13件	家族等の問題	18件	サービス依存	0件	医療の問題	8件	アルコール	5件	薬物	0件	経済困窮	12件	苦情	4件	その他	4件	<p>令和元年度に介護保険サービス事業所と障がい事業所の垣根を越えた研修会を開催する予定であったが、新型コロナウイルスの影響もあり、開催できなかったため、令和2年度に実施する。</p> <p>居宅介護支援事業所等のケアマネジャーとは、権利擁護業務で協働して支援することも多く、個別ケースの支援では連携が取れている状況である。</p> <p>障がい事業所とは地域行事や地域ケア会議などを通し、相談しやすい関係性は徐々に構築できている。</p> <p>地域の担い手である民生委員や町会役員とは、行事等への参加を通し関係づくりができています。高齢者以外の相談（経済困窮等）を受けることも増えてきています。</p> <p>センターは、高齢者の相談機関という位置づけではあるが、地域のつぶやきなどを拾い上げ、必要な機関につなぐ等の役割が求められていると考えられるため、障がい保健福祉課相談支援・精神保健担当や生活困窮自立支援窓口等とケースを通して連携を図っていくことが必要であると考えます。</p>							
認知症	20件																																				
知的がい	1件																																				
精神障害等	5件																																				
支援拒否	3件																																				
急激なADL低下	6件																																				
独居等	13件																																				
家族等の問題	18件																																				
サービス依存	0件																																				
医療の問題	8件																																				
アルコール	5件																																				
薬物	0件																																				
経済困窮	12件																																				
苦情	4件																																				
その他	4件																																				
センター内スキルアップ対策	<p>○ 権利擁護業務に係る研修参加状況（延回数）</p> <p>・ 研修内容別参加回数</p> <table border="1"> <tr><td>成年後見制度</td><td>8回</td></tr> <tr><td>高齢者虐待</td><td>2回</td></tr> <tr><td>その他</td><td>7回</td></tr> <tr><td>合計</td><td>17回</td></tr> </table> <p>・ 職種別参加回数</p> <table border="1"> <tr><td>社会福祉士</td><td>11回</td><td>64.7%</td></tr> <tr><td>保健師</td><td>2回</td><td>11.8%</td></tr> <tr><td>主任ケアマネジャー</td><td>3回</td><td>17.6%</td></tr> <tr><td>ケアマネジャー</td><td>1回</td><td>5.9%</td></tr> <tr><td>合計</td><td>17回</td><td>100.0%</td></tr> </table> <p>○ 複数の職員で対応したケース数</p> <table border="1"> <tr><td>成年後見制度</td><td>2件</td><td>18.2%</td></tr> <tr><td>高齢者虐待</td><td>3件</td><td>27.3%</td></tr> <tr><td>その他</td><td>6件</td><td>54.5%</td></tr> <tr><td>計</td><td>11件</td><td>100.0%</td></tr> </table> <p>※うち経験年数の少ない職員のケースは5件すべてに副担当者を配置した</p>	成年後見制度	8回	高齢者虐待	2回	その他	7回	合計	17回	社会福祉士	11回	64.7%	保健師	2回	11.8%	主任ケアマネジャー	3回	17.6%	ケアマネジャー	1回	5.9%	合計	17回	100.0%	成年後見制度	2件	18.2%	高齢者虐待	3件	27.3%	その他	6件	54.5%	計	11件	100.0%	<p>権利擁護に関する研修参加は8回で、主として社会福祉士が参加しているが、他の職種も満遍なく研鑽できるよう、研修計画を立てて参加した。</p> <p>虐待対応現任者研修については、全職種が受講済みで、未受講者についても随時研修を受ける予定となっている。</p> <p>成年後見制度の相談も増えているが、社会福祉士以外の職種が研修会に出る機会は少ない。今後は成年後見制度の研修会に各専門職が参加できるように計画を立てていく。</p> <p>経験年数の少ない職員に対しては、副担当者をつけており、複数の職員での対応により職員の精神的負担の軽減を図るとともに、地域ケア会議につなげる等のスキル向上に努めた。</p> <p>また、出前講座等に関しては、副担当として企画から参加しているが、令和2年度からは主担当として、出前講座の講師などの機会を作る。</p>
成年後見制度	8回																																				
高齢者虐待	2回																																				
その他	7回																																				
合計	17回																																				
社会福祉士	11回	64.7%																																			
保健師	2回	11.8%																																			
主任ケアマネジャー	3回	17.6%																																			
ケアマネジャー	1回	5.9%																																			
合計	17回	100.0%																																			
成年後見制度	2件	18.2%																																			
高齢者虐待	3件	27.3%																																			
その他	6件	54.5%																																			
計	11件	100.0%																																			

令和2年度 活動計画

事業目標	計画	評価指標
<p>圏域内の介護および医療、障がい関係者などの支援者が顔を合わせ、相互理解できるような場を作る。</p> <p>経済困窮やひきこもり状態にある同居家族への支援について、関係機関との連携を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 権利擁護対応した事例を用いて、関係者を参集した研修会を開催する。 ・ 多重な課題を抱える世帯等に関しては、ケースカンファレンスもしくは地域ケア会議を通じて、他分野の関係者が連携しやすい関係づくりを行う。 ・ 壮年期および経済困窮の相談に関しては、生活困窮者自立支援窓口へのつなぎを行い、個別ケースの支援を通して連携を図る。 ・ 壮年期の精神疾患を伴う相談に関しては、障がい保健福祉課相談支援・精神保健担当や精神科病院、精神保健福祉士へのつなぎや連携をもって対応する。 ・ 精神保健福祉士との懇談会へ参加する。 	<p>○権利擁護相談対応状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 対応件数 ・ 対応事案内訳 ・ ネットワーク構築機関
<p>研修計画を立て、全職員が権利擁護について学ぶ機会を持つ。</p> <p>困難ケース等に関しては、複数の職員での対応とし、全職員が権利擁護ケースへの対応ができるようになる。</p> <p>経験年数の少ない職員であったとしても、主担当として出前講座の講師等を実践していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 権利擁護に関する研修会へ、職種の垣根を払い参加する。 ・ 虐待対応現任者研修の未受講者は、随時受講する。 ・ 勤続年数および職種のバランスを考え、ケース対応を行うことで経験を積むとともに、職員の精神的な負担を軽減して対応する。 ・ センター内でのケース検討会議（デスクカンファレンス含む）を不定期で開催し、ケース解決に必要な視点をセンター職員で共有する。 ・ 地域への出前講座等の依頼に対し、勤続年数が3年未満の職員も積極的に参加して講師を行う事で、職員のスキルアップを図る。 	<p>○高齢者虐待、困難事例、成年後見制度、消費者被害に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修会や事例検討会の開催内容と参加機関、参加者数 ・ 研修会や事例検討会の参加回数

(イ) 権利擁護業務

事業内容	令和元年度 活動評価											
	実績	評価										
住民に対する 広報・啓発活動	○権利擁護にかかる出前講座・リーフレット配布等の機関(R1.12末)											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>内 容</th> <th>機関名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">高齢者虐待</td> <td>亀田日和（サ高住）</td> </tr> <tr> <td>昭和在宅福祉委員会</td> </tr> <tr> <td>成年後見制度</td> <td>亀田病院</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">消費者被害</td> <td>おれんじカフェ昭和</td> </tr> <tr> <td>昭和在宅福祉委員会</td> </tr> </tbody> </table>		内 容	機関名	高齢者虐待	亀田日和（サ高住）	昭和在宅福祉委員会	成年後見制度	亀田病院	消費者被害	おれんじカフェ昭和	昭和在宅福祉委員会
	内 容	機関名										
	高齢者虐待	亀田日和（サ高住）										
		昭和在宅福祉委員会										
	成年後見制度	亀田病院										
	消費者被害	おれんじカフェ昭和										
		昭和在宅福祉委員会										
	○ 広報紙による周知（R1.12末）											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">R1.8</td> <td>成年後見制度について</td> </tr> <tr> <td>成年後見センターについて</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">R1.12</td> <td>高齢者虐待について</td> </tr> <tr> <td>地域の見守りについて</td> </tr> </tbody> </table>		時期	内 容	R1.8	成年後見制度について	成年後見センターについて	R1.12	高齢者虐待について	地域の見守りについて		
時期	内 容											
R1.8	成年後見制度について											
	成年後見センターについて											
R1.12	高齢者虐待について											
	地域の見守りについて											
<p>広報・啓発活動の実施件数は25件であり、うち5件は権利擁護についての内容となっている。</p> <p>令和元年度は、昭和在宅福祉委員会のふれあい昼食会にも参加できるようになり、講話の機会も増えている。</p> <p>医療や介護保険サービス事業所等からの講話依頼に関しては、他法人への開催実績がなかったため、今年度も引き続き他法人に出前講座の開催について周知していく。</p> <p>広報紙では、消費者被害と高齢者虐待について掲載し、各町会の回覧板に入れて配布したり、商業施設等へも配布し、住民の目につきやすいように対応した。</p>												

令和2年度 活動計画

事業目標	計画	評価指標
<p>住民に対して繰り返し権利擁護の視点や、相談先についての周知を続ける。</p> <p>介護保険サービス事業所等のニーズを把握し、出前講座を開催する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住民向けの出前講座の際に、権利擁護に関するリーフレットや消費者被害防止のパスケースなどの配布を行い、目につきやすい環境づくりを継続する。 ・ 広報紙に権利擁護に関わる視点についての記事を掲載する。 ・ 他法人向けの出前講座開催案内を作成し、直接配布することでニーズの聞き取りおよび把握を行う。 ・ ケアマネジャーや相談職など、普段から連携しているスタッフ以外の職員と顔を合わせる機会を作り、相談しやすい関係性を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 権利擁護業務にかかる広報・啓発回数 ・ 高齢者虐待、消費者被害、成年後見制度 ・ 出前講座、講師派遣の依頼機関

(ウ) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

【根拠法令】介護保険法115条の4第2項第3号

【目的】高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、個々の高齢者等の状況や変化に応じて、包括的かつ継続的に支援していくための地域における多職種相互の連携・協働の体制づくりや個々の介護支援専門員に対する支援を行う。

事業内容	令和元年度 活動評価				
	実績				評価
包括的・継続的 ケアマネジメント体制 の構築	○ケアマネジャーの資質向上について (R1.12末)				
	・ ケアマネジメント研修 (10センター合同)				
		参加 事業所	参加 人数	参加率	
				事業所	ケアマネジャー
	居宅	9事業所	26人	69.2%	56.5%
	小多機	1事業所	1人	100.0%	100.0%
	看小多機	1事業所	1人	100.0%	100.0%
	・ 圏域内フォローアップ研修 (北部圏域と合同)				
		参加 事業所	参加 人数	参加率	
				事業所	ケアマネジャー
居宅	7事業所	15人	53.8%	32.6%	
小多機	0事業所	0人	0%	0%	
看小多機	0事業所	0人	0%	0%	
※ 圏域内の事業所・ケアマネジャー数 (研修開催時点)					
・ 居宅介護支援事業所 13事業所					
・ (看護)小規模多機能型事業所 2事業所					
・ ケアマネジャー 46名					
※ ケアマネジメント研修および圏域内フォローアップ研修両方に参加したのは、5事業所 (33.3%)、9名 (19.6%) のケアマネジャーであった。2事業所はどちらの研修も不参加。					
○ケアマネジャーのネットワーク構築について (R1.12末)					
・ 圏域内ケアマネジメント研修(第22方面民生児童委員協議会と合同)					
	参加 事業所	参加者	参加率		
			事業所	ケアマネジャー	
民生委員	—	19人	—	—	
居宅	7事業所	11人	63.6%	25.0%	
※ 圏域内の居宅介護支援事業所を対象に実施。					
※ 圏域内の事業所・ケアマネジャー数 (研修開催時点)					
・ 居宅介護支援事業所 11事業所					
・ ケアマネジャー 44人					
<p>令和元年度から複数年に渡り、市内全センターが協働し、ケアマネジャーの資質向上を目指した研修の開催を計画している。その初年度として、全体研修の開催後、さらに理解を深めるためのフォローアップ研修を各圏域で実施した。</p> <p>全体研修受講後にフォローアップ研修を受講することで学びが深まることを想定していたが、両研修に参加した居宅介護支援事業所は圏域内では5事業所(33.3%)、ケアマネジャーも9名(19.6%)のみであった。</p> <p>事業目標に掲げた、ケアマネジャーがネットワークを強化するとともにそれを活用できることを念頭に、第22方面民生児童委員協議会と合同で実施した研修では、7事業所(63.6%)、11名(25.0%)のケアマネジャーが参加した。研修実施に当たっては、居宅介護支援事業所の主任ケアマネジャーに講師を依頼し、事前準備からの参画等の工夫をした。</p> <p>各研修とも、参加者アンケートの結果ではケアマネジャーからの評価は高く、内容においては及第点と思われるが、参加者(参加率)の低迷については、研修の意図や目的が十分に伝わっていなかったのが一因と思われる。一方で、他団体が実施している対人援助技術やケアプラン作成についての研修会や事例検討会を見ると、多くのケアマネジャーが参加しており、積極的に学ぼうというケアマネジャーが多い。インフォーマルサービスや地域の社会資源の活用、ケアマネジャーとしてのネットワーク拡充等の意識が十分に醸成されていないことも考えられる。</p> <p>以上のことから、開催回数の目標数値(3回)は達成しているが、研修の目的であるICFへの理解を深めてもらうという視点では合同、圏域共に参加したケアマネジャーが少なく十分な結果とは言えない。</p> <p>数値で判断しやすい参加者数に基づいて評価しがちであるが、あくまでも包括的・継続的ケアマネジメント体制の構築が命題として課せられていることを忘れず、本業務以外の場でも体制構築を意識して活動する必要がある。</p>					

令和2年度 活動計画		
事業目標	計画	評価指標
<p>ケアマネジャーがICFの視点に立ち、自立支援を念頭に置いたケアプランの作成ができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度に定めたケアマネジメント研修計画で掲げた「多くのケアマネジャーが、ICFの視点にたち、本人や地域の強みを活かしたケアマネジメントを行うことができる」を実現するための全体研修を実施する。 令和元年度の目標である「ICFの理念・考え方が理解できる」の振り返りを行うこと、「ICFの考え方を活用したケアマネジメントが実践できる」ことを到達目標とする。 全体研修とフォローアップ研修の両方を受講してもらえるように、懇談会などの場で研修について周知し参加率向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ケアプランマネジメント研修開催回数（他職種連携、主任ケアマネジャー連携） 参加数(率) (>60%) 居宅/小多機8事業所以上
<p>ケアマネジャーがネットワークを強化し、活用することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日常のケアマネジメント業務で活用できる多職種や他機関との連携やネットワーク構築を意識した研修や懇談会を実施する。また、既存のセンター業務として行っている認知症カフェや出前講座への参加を促す等、より自然な形で地域の方と交流が図れるような働きかけをする。 	

(ウ) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

事業内容	令和元年度 活動評価	
	実績	評価
介護支援専門員に対する個別支援	○支援件数	
		H29 H30 R1.12末
	ケース数	8件 7件 13件
	終結件数	6件 7件 12件
	終結率	75.0% 100% 92.3%
	○対応月数と対応回数 (R1.12末)	
	対応月数	件数
	1か月	8件
	2か月	3件
	3か月以上	2件
		支援対象者 回数 1件平均
	ケアマネジャー	51回 3.9回
	利用者	20回 1.5回
	○相談者(重複あり) (R1.12末)	
	ケアマネジャー	11件
利用者	1件	
家族	3件	
民生委員	1件	
医療機関	1件	
行政	1件	
○課題の背景(重複あり) (R1.12末)		
ケアマネジャー	6件	
利用者	7件	
家族	8件	
その他	5件	
○センターの対応(重複あり) (R1.12末)		
情報提供	4件	
支援方針の助言	9件	
計画作成の助言	1件	
地域とのつながり	2件	
ケアマネジャーの変更支援	2件	
その他	1件	
○権利擁護ケースでのケアマネジャーとの協働 (R1.12末)		
権利擁護業務対応件数	42件	
ケアマネジャーと協働したケース	25件 (59.5%)	
ケアマネジャーへの対応回数	182回	
1件平均の対応回数	7.3回	
		<p>平成29年・30年度は7～8件の対応件数であったが、令和元年度は13件と若干増えている。12月末時点で対応中のケースは1件あるが、他のケースはすべて終結している。複数月をまたいで支援した件数が5件あり、支援が長期化することも珍しくない状況である。</p> <p>ほとんどの相談がケアマネジャーからであり、対応としては情報提供や支援方針の助言・指導等の支援となっている。平成29・30年度に4件ずつあったケアマネジャー変更に付随する対応は2件であった。</p> <p>課題の背景としては、ケアマネジャーのスキルが不足していると思われるケースが半数ある一方で、利用者もしくは家族が支援を阻害する要因となっているケースもあり、そのようなケースでは必然的に対応回数や時間を要する結果となっている。</p> <p>また、令和元年度の特徴として、対応件数13件の内2件はケアマネジャーと民生委員とのネットワークの構築支援であった。センターとして、地域とケアマネジャーのつながりを意識しての支援をしてきた結果であると思われる。</p> <p>ケアマネジャーに対する支援件数として13件は少なく感じるが、権利擁護業務として分類される支援困難ケースでは、59.5%のケースでケアマネジャーと協働しながら問題解決を図っている。センターとしての対応回数も、ケアマネジャーに対する個別支援の1.9倍となっている。</p> <p>困難支援ケースでは、対応が複雑多岐に渡りケアマネジャー単独で問題解決することが難しくなるため、役割分担する事でケアマネジャーの量的負担を軽減するとともに、過大な対応による精神的な疲弊を予防する意味でも、より積極的な介入を意識しており、対応回数も必然的に増えている。</p> <p>研修等の実施や助言、情報提供だけではなく実際のケース対応を通じてケアマネジャーとしてのスキルアップ支援をする視点が必要と思われる。</p>

令和2年度 活動計画

事業目標	計画	評価指標
<p>センターが社会資源の一つとして認知され、ケアマネジャーがセンターに相談しやすい関係性を構築することができる。</p> <p>インフォーマルサービスや地域とのつながりを意識した支援をする。</p> <p>ケース支援の過程で、ケアマネジャー自身のスキルアップを図ることができる。</p> <p>また、センターの主任ケアマネジャーのみならず他職種の職員もケアマネジャー支援を行うことで、センター全体の対応力の底上げを図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会や懇談会でセンターの役割について周知するほか、ケアマネジャーが参加する各種研修会や勉強会に参加し、日常業務以外でも顔を合わせる等、顔の見える関りを持つとともに、新規ケースの対応依頼時や担当者会議への出席等でも良好な関係づくりを意識する。 ・包括的・継続的ケアマネジメントを実践するために、既存の介護リソースだけではなく、地域の機関や社会資源の活用を意識した支援を行う。また、『民生委員とケアマネジャーの連携ガイド』を活用し、身近な支援者としての民生委員とのつながりが持てるよう支援する。 ・ケアマネジャーのスキルに応じて支援内容や支援方法を確認・共有しながら対応することで、終結を意識した支援を行い、センターへ相談した成果を感じられるよう支援することで、ケアマネジャー自身の成長を促す。また、必要に応じ居宅介護支援事業所の管理者とも振り返りを行う等、事業所との協働を図っていく。 ・センターの主任ケアマネジャー以外の職種が、居宅介護支援事業所等のケアマネジャーへの個別支援を行えるよう正副担当2人体制とするなどの工夫を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジャーへの個別支援数と終結率 ・地域とのつながりを視野に入れ支援したケース数

(エ) 地域ケア会議推進事業

【根拠法令】介護保険法115条の48

【目的】地域包括ケアシステムの構築のため、地域ケア会議を開催し、介護サービスだけでなく、様々な社会資源が有機的に連携することができる環境を整備し、高齢者が住み慣れた地域で自立した生活を営むことができるよう支援を行う。

事業内容	令和元年度 活動評価			
	実績			評価
個別ケースの検討を行う地域ケア会議	○開催状況			
		H29	H30	R1.12末
	目標数値	7回	7回	7回
	開催回数	7回	7回	7回
	達成率	100.0%	100.0%	100.0%
	○参加機関 (R1.12末)			
	本人、家族、民生委員、町会役員、ケアマネジャー、介護保険サービス事業所、医療機関、障がい事業所、司法専門職、行政			
	○検討した問題 (複数選択)			
		H29	H30	R1.12末
	独居	5件	7件	5件
認知症	7件	7件	4件	
健康管理	1件	4件	4件	
サービス拒否	1件	3件	2件	
財産管理	4件	5件	4件	
経済困窮	0件	0件	2件	
家族の問題	3件	4件	3件	
火災予防	2件	3件	0件	
見守り体制	3件	1件	3件	
その他	7件	2件	2件	
その他の内訳 [未受診、家の立退き]				
地域課題の検討を行う地域ケア会議	○開催状況 (R1.12末)			
		H29	H30	R1.12末
	目標数値	3回	3回	3回
	開催回数	3回	3回	1回
	達成率	100.0%	100.0%	33.3%
	○開催内容			
	日時	令和元年11月22日		
	地域	石川町		
	テーマ	防災対策をキーワードとした地域課題の共有とネットワークづくり		
	日時	令和2年3月9日		
地域	昭和地区			
テーマ	人とのつながりを大切にすまちづくり			
※新型コロナウイルスの影響で延期				
住民に対する広報・揮発活動	○地域ケア会議や見守り活動にかかる出前講座・リーフレット配布等の依頼機関 (R1.12末)			
	内容	機関名		
	地域ケア会議	函館市町会連合会		
		函館薬剤師会		
	見守り活動	昭和在宅福祉委員会		
		函館市町会連合会		
		函館薬剤師会		
		美原老人福祉センター		
	○広報紙による周知 (R1.12末)			
	時期	内容		
令和元年8月	地域ケア会議について			
『独居』『認知症』の他、『健康管理』『財産管理』の問題を抱えているケースが多いが、医療機関と障がい事業所、ケアマネジャーとケースワーカー等、関係機関の連携が不十分であったため、平時から連携できる体制の構築を図った。 関係者間での役割分担や見守り体制を整備したことで、構築したネットワークが機能した。 『家族の問題』への対応も多く、今後は、高齢者の支援のみならず、家族支援を目的に医療機関や司法専門職と連携することも必要である。				
圏域内を小地区に分類し、地区ごとの課題に着眼して地域ケア会議を開催する手法を取った。 【石川町】 学童保育や消防団等、地域の関係者が新たに参加した。「防災対策」をキーワードとして、子どもから高齢者、新規転入者等の幅広い世代の目線で『地域』『人』『資源』について共有した。 地域ケア会議を定例開催することにより、町会（在宅福祉委員）と介護施設、高等支援学校等のネットワークが強化された。機関同士が連携した取り組みを行えるよう懇談会を企画する等の活動に波及している。 【昭和地区】 新型コロナウイルスの影響で延期となり、令和元年度は未開催となった。				
広報紙や出前講座の活用により、地域ケア会議や地域での見守り活動の重要性について広報した。				

令和2年度 活動計画		
事業目標	計画	評価指標
現に問題を抱える高齢者の支援の充実が図られ、構築したネットワークが機能する。	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜、個別ケースの課題に応じて会議を企画・運営する。 ・現に抱える課題を解決するための支援策について、専門職のみならず、関係者、住民等とともに検討・共有・役割分担することで、具体的な支援体制や見守り体制等を構築する。 ・居宅介護支援事業所等のケアマネジャーが担当しているケースの場合、包括的・継続的ケアマネジメント支援業務の目的を包含し、ケアマネジャーと地域関係者とのネットワーク構築を図る。また、構築されたネットワークが継続的に機能しているか評価する。 ・自立支援型ケア会議については、「主任介護支援専門員部会」での協議を継続し、開催に向けて具体的準備を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・開催回数と目標数値の達成率 ・構築されたネットワークの機能状況の把握
地区ごとの課題に沿って会議を開催する。	<p>【石川町】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域を知り、分野を超えてつながろう（仮）」をテーマに実施する。 ・在宅福祉委員（町会役員）、高齢者分野、子ども分野、障がい分野等、多世代・多機関を参集して開催することにより、多角的・多面的な意見や情報を共有する。 ・地域ケア会議より波及した、参加機関の連携による新たな活動や取り組みについても、継続して実施できるよう支援・把握する。 <p>【昭和地区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「人とのつながりを大切にすまちづくり（仮）」をテーマに実施する。 ・地域の見守り状況について共有し、住民の関心を高めるとともに、「相談するハードル」を下げる取り組みを検討していく。 ・現行の活動や集いの場の課題を共有・再整理するとともにその活動の活性化を図るための具体策について協議していく。 ・担い手不足の課題もあり、既存の活動や取り組みが存続できるよう現状把握を行うとともに、関係機関との情報共有や取り組みへの後方支援等を実施していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・開催回数と目標数値の達成率 ・構築されたネットワークでの活動や効果の把握 ・新たな取り組みや体制、活動の状況
地域のことや、住民同士の支え合い、見守りに関心を持つ住民や関係機関が増える。	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分の住む地域のこと」に関心を持てるよう、広報紙や出前講座の一コマ等を有効に活用して周知を図る。 ・ケアマネジャーに対しては、個別ケースの課題解決に向けて、支援体制確立やネットワーク構築の1つの手段として個別ケースの検討を行う地域ケア会議を活用できるよう周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の支え合いや地域ケア会議にかかる広報・啓発回数とその方法

イ 生活支援体制整備事業

(ア) 第2層生活支援コーディネーター業務

【根拠法令】介護保険法115条の4第2項第5号

【目的】地域における住民主体の助け合い活動を促進する仕組みおよび高齢者の社会参加を促進する仕組みの創出ならびに充実を行う。

事業内容	令和元年度 活動評価																										
	実績	評価																									
第2層生活支援 コーディネーター活動	<p>○第2層協議体開催状況</p> <table border="1"> <tr> <td>日時</td> <td>令和2年3月2日</td> </tr> <tr> <td>地域</td> <td>美原</td> </tr> <tr> <td>テーマ</td> <td>赤川通団地周辺の地域課題共有と集いの場づくり</td> </tr> <tr> <td>参加機関</td> <td>町会役員、民生委員、住宅都市施設公社、集会所管理人、社会福祉協議会、くらしのサポーター、介護保険サービス事業所</td> </tr> <tr> <td>新たに構築したネットワーク(再掲)</td> <td>集会所管理人、くらしのサポーター、介護保険サービス事業所</td> </tr> </table> <p>※新型コロナウイルスの影響で延期</p>	日時	令和2年3月2日	地域	美原	テーマ	赤川通団地周辺の地域課題共有と集いの場づくり	参加機関	町会役員、民生委員、住宅都市施設公社、集会所管理人、社会福祉協議会、くらしのサポーター、介護保険サービス事業所	新たに構築したネットワーク(再掲)	集会所管理人、くらしのサポーター、介護保険サービス事業所	<p>○第2層協議体</p> <p>圏域内を小地区に分類し、地区ごとの課題に着眼して第2層協議体を開催する手法を取った。</p> <p>【美原】</p> <p>新型コロナウイルスの影響で延期となり、令和元年度は未開催であった。</p> <p>新たな協議体メンバーとして、くらしのサポーター登録者と初めて関わりを持つことができたが、開催延期により協働までには至らなかった。</p> <p>【北美原】</p> <p>新たな第2層協議体の設置に向けて、関係機関の代表者へ個別に趣旨説明と呼びかけを行った。その際に「子どもや子育て世代の交流がない」「高齢者の活動は盛んだが、多世代の交流がない」という地域の実情や、北美原町会の歴史等を聞くことができた。交流の場(居場所)の創出等の協議について前向きな意見が多くあり、令和2年度に協議体を設置することとした。</p> <p>○介護予防・日常生活支援総合事業</p> <p>【赤川町会】</p> <p>老人保健施設もも太郎から、地域貢献活動を行いたいとの話があり、町会、もも太郎の協力のもと健康づくり教室を開催した。町会は周知や会場の提供、もも太郎は講師の派遣を行った。</p> <p>当初、月2回の開催を想定していたが、町会の老人クラブ(清流会)の行事と重なるため、月1回(第1火曜日)のみの開催となった。開催間隔が大きく開くため、参加者が開催日を忘れてしまうことが多く、3か月ごとに町会でチラシを配布した。</p> <p>赤川町会は会館と住宅街の距離が遠く、自家用車の乗り合いで参加する方もいた。また、徒歩での参加の方は、会場まで20分以上かかる場合もあり、参加しにくい環境が参加者数の伸び悩みや冬季の開催が難しい要因となっている。</p>															
	日時	令和2年3月2日																									
	地域	美原																									
	テーマ	赤川通団地周辺の地域課題共有と集いの場づくり																									
	参加機関	町会役員、民生委員、住宅都市施設公社、集会所管理人、社会福祉協議会、くらしのサポーター、介護保険サービス事業所																									
	新たに構築したネットワーク(再掲)	集会所管理人、くらしのサポーター、介護保険サービス事業所																									
	<p>○新たに構築したネットワーク</p> <p>【北美原2層協議体の設置に向けて】 町会役員、民生委員、小学校、小学校PTA、学童保育所、地域のキーマン、社会福祉協議会、第1層生活支援コーディネーター</p>																										
	<p>○介護予防・日常生活支援総合事業の実施状況</p> <p>【赤川町会館・新規教室】(R1.12末)</p> <p>・開催状況</p> <table border="1"> <tr> <th>開催回数</th> <th>参加者(実)</th> <th>参加者(延)</th> <th>1回平均</th> <th>1人平均</th> </tr> <tr> <td>6回</td> <td>17人</td> <td>57人</td> <td>9.5人</td> <td>3.3回</td> </tr> </table>	開催回数	参加者(実)	参加者(延)	1回平均	1人平均	6回	17人	57人	9.5人	3.3回																
	開催回数	参加者(実)	参加者(延)	1回平均	1人平均																						
	6回	17人	57人	9.5人	3.3回																						
<p>・教室後に維持・向上した人数と割合</p> <table border="1"> <tr> <th></th> <th>人数</th> <th>割合</th> </tr> <tr> <td>主観的健康観</td> <td>10人</td> <td>90.9%</td> </tr> <tr> <td>運動や趣味活動</td> <td>10人</td> <td>90.9%</td> </tr> <tr> <td>外出頻度</td> <td>7人</td> <td>63.6%</td> </tr> <tr> <td>社会活動の頻度</td> <td>9人</td> <td>81.8%</td> </tr> </table>		人数	割合	主観的健康観	10人	90.9%	運動や趣味活動	10人	90.9%	外出頻度	7人	63.6%	社会活動の頻度	9人	81.8%												
	人数	割合																									
主観的健康観	10人	90.9%																									
運動や趣味活動	10人	90.9%																									
外出頻度	7人	63.6%																									
社会活動の頻度	9人	81.8%																									
<p>・地域(町会や近所)との交流状況(複数回答)</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="2"></th> <th>教室前</th> <th>教室後</th> </tr> <tr> <td rowspan="5">ある</td> <td>挨拶程度</td> <td>3人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>立ち話をする</td> <td>2人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>行き来がある</td> <td>5人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>町会行事に参加している</td> <td>7人</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td>生活面で協力し合う</td> <td>1人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">あまりない</td> <td>知っている人がいない</td> <td>0人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>知り合う機会がない</td> <td>0人</td> <td>0人</td> </tr> </table>			教室前	教室後	ある	挨拶程度	3人	3人	立ち話をする	2人	2人	行き来がある	5人	6人	町会行事に参加している	7人	8人	生活面で協力し合う	1人	1人	あまりない	知っている人がいない	0人	0人	知り合う機会がない	0人	0人
		教室前	教室後																								
ある	挨拶程度	3人	3人																								
	立ち話をする	2人	2人																								
	行き来がある	5人	6人																								
	町会行事に参加している	7人	8人																								
	生活面で協力し合う	1人	1人																								
あまりない	知っている人がいない	0人	0人																								
	知り合う機会がない	0人	0人																								
<p>・参加した感想</p> <table border="1"> <tr> <th></th> <th>人数</th> <th>割合</th> </tr> <tr> <td>とてもよかった</td> <td>9人</td> <td>81.8%</td> </tr> <tr> <td>よかった</td> <td>2人</td> <td>18.2%</td> </tr> <tr> <td>あまり良くなかった</td> <td>0人</td> <td>0.0%</td> </tr> <tr> <td>期待はずれだった</td> <td>0人</td> <td>0.0%</td> </tr> </table>		人数	割合	とてもよかった	9人	81.8%	よかった	2人	18.2%	あまり良くなかった	0人	0.0%	期待はずれだった	0人	0.0%												
	人数	割合																									
とてもよかった	9人	81.8%																									
よかった	2人	18.2%																									
あまり良くなかった	0人	0.0%																									
期待はずれだった	0人	0.0%																									

令和2年度 活動計画		
事業目標	計画	評価指標
<p>○第2層協議体 地区の関係者やキーマンとともに第2層協議体を設置する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・圏域内を小地区に分類し、地区ごとのテーマに沿って関係機関を参集し、地域の課題や見守り体制について共有するとともに既存の社会資源が有機的に連携できるようマッチングやネットワークの構築・強化を図る。 <p>【美原】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「赤川通団地周辺の地域課題の共有と集いの場づくり（仮）」をテーマに実施する。 ・くらしのサポーターや介護保険サービス事業所、集会所管理人等の関係者を新たに参集し、多角的な視点から地域課題を共有するとともに、取り組みの優先順位を明確にする。 ・住民の交流が希薄であることが課題として挙げたことから、集いの場の創出に向けて検討していく。 <p>【北美原】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「住民の交流を深めよう（多世代交流）（仮）」をテーマに実施する。 ・第1層生活支援コーディネーターと協働して、新たに第2層協議体を設置する。 ・参集者と地域の現状や課題を共有し、整理する。 ・課題に優先順位をつけ、具体的な取り組みを決めるとともに、取り組みの目的・参集者の増員・会議開催の頻度・達成時期等を設定し、中長期スケジュールを立てて活動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・開催回数と目標数値の達成率 ・構築されたネットワークでの活動や効果の把握 ・新たな取り組みや体制、活動の状況
<p>○介護予防・日常生活支援 総合事業 【赤川町会】 地域住民の健康の維持増進と、外出・交流の場の継続ができる。</p>	<p>【赤川町会健康づくりサロン】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主教室として継続するための支援をする。 ・赤川町会館で実施するため、会場の確保と日程調整を支援する。 ・チラシを作製し、赤川町会に依頼して周知を図る。 ・老人保健施設もも太郎が講師となる。 ・参加者の移動距離が長いので、冬季は開催しない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・開催回数および参加者数 ・健康づくりサロン参加者の行動変容 ・参加者の主観的健康観の変化 ・自主グループ化後の活動状況

(ア) 第2層生活支援コーディネーター業務

事業内容	令和元年度 活動評価																											
	実績	評価																										
第2層生活支援 コーディネーター活動	<ul style="list-style-type: none"> 今後の取り組みについて（複数回答） <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>人数</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>この教室で活動したい</td> <td>9人</td> <td>81.8%</td> </tr> <tr> <td>ほかの教室にも参加する</td> <td>1人</td> <td>9.1%</td> </tr> <tr> <td>ほかの教室にも参加したいが難しい</td> <td>1人</td> <td>9.1%</td> </tr> <tr> <td>自分で介護予防に取り組んでみる</td> <td>0人</td> <td>0.0%</td> </tr> </tbody> </table>		人数	割合	この教室で活動したい	9人	81.8%	ほかの教室にも参加する	1人	9.1%	ほかの教室にも参加したいが難しい	1人	9.1%	自分で介護予防に取り組んでみる	0人	0.0%	<p>アンケートの結果、健康状態を維持できた方が多かった。他町会と比べ、もともと地域での交流や町会活動での他の参加者と関わりがあった方が多い印象があり、赤川町会の特徴の一つと考えられる。令和2年度以降については、継続を希望する参加者が多く、引き続き町会館を会場に、もも太郎主催の自主教室として継続する見込みで、センターはチラシ作成等の支援を行うこととなっている。</p> <p>【美原5丁目】</p> <p>美原5丁目の地域支援グループくりの木のサロン会場を借りることができたため、町会等の協力も得て開催となった。会場が20畳程度とあまり広くないため、参加者数は10人程度の想定だったが、15人ほどの応募があった。しかし、1回あたりの参加者数の平均は7.8名であり、会場の広さに対して適正であったと考える。当初リーダーとなるボランティアの募集をしたが応募がなく、参加者にもリーダーとして活動する方がいなかった。今後、リーダーを見つけることで自主化し、活動を継続できるかがカギとなる。</p> <p>教室の講師は、町内に住むレクリエーションインストラクターの方に依頼し開催した。内容としては、運動量が少なめで楽しむ要素が強く、高齢の参加者も継続参加できている。</p> <p>開催日を会場の都合から毎週第2、4月曜日に設定したが、月曜日は祭日が多く代替日も設定できないため、月1回の開催となることも数回あった。間隔が大きく空くと、開催日を参加者が忘れてしまうことがあり、参加者が少なくなる要因の一つと考えられた。対策として電話や手紙などで参加を促し、継続参加を図った。</p>											
		人数	割合																									
	この教室で活動したい	9人	81.8%																									
	ほかの教室にも参加する	1人	9.1%																									
	ほかの教室にも参加したいが難しい	1人	9.1%																									
	自分で介護予防に取り組んでみる	0人	0.0%																									
	<ul style="list-style-type: none"> 次年度の方向性 （自主教室として継続（町会、もも太郎主催とし、センターは後方支援）） 																											
	<p>【美原5丁目・新規教室】（R1.12末）</p> <ul style="list-style-type: none"> 開催状況 <table border="1"> <thead> <tr> <th>開催回数</th> <th>参加者(実)</th> <th>参加者(延)</th> <th>1回平均</th> <th>1人平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>12回</td> <td>15人</td> <td>94人</td> <td>7.8人</td> <td>6.2回</td> </tr> </tbody> </table>	開催回数	参加者(実)	参加者(延)	1回平均	1人平均	12回	15人	94人	7.8人	6.2回																	
	開催回数	参加者(実)	参加者(延)	1回平均	1人平均																							
	12回	15人	94人	7.8人	6.2回																							
<ul style="list-style-type: none"> 地域（町会や近所）との交流状況（複数回答） <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>教室前</th> <th>教室後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">ある</td> <td>挨拶程度</td> <td>1人</td> <td>－</td> </tr> <tr> <td>立ち話をする</td> <td>8人</td> <td>－</td> </tr> <tr> <td>行き来がある</td> <td>3人</td> <td>－</td> </tr> <tr> <td>町会行事に参加している</td> <td>1人</td> <td>－</td> </tr> <tr> <td>生活面で協力し合う</td> <td>1人</td> <td>－</td> </tr> <tr> <td>あまり</td> <td>知っている人がいない</td> <td>1人</td> <td>－</td> </tr> <tr> <td>ない</td> <td>知り合う機会がない</td> <td>0人</td> <td>－</td> </tr> </tbody> </table>			教室前	教室後	ある	挨拶程度	1人	－	立ち話をする	8人	－	行き来がある	3人	－	町会行事に参加している	1人	－	生活面で協力し合う	1人	－	あまり	知っている人がいない	1人	－	ない	知り合う機会がない	0人	－
		教室前	教室後																									
ある	挨拶程度	1人	－																									
	立ち話をする	8人	－																									
	行き来がある	3人	－																									
	町会行事に参加している	1人	－																									
	生活面で協力し合う	1人	－																									
あまり	知っている人がいない	1人	－																									
ない	知り合う機会がない	0人	－																									
<ul style="list-style-type: none"> 次年度の方向性 （センターが主催の継続教室として実施。リーダーが不在の場合は、終了も検討する。） 																												

令和2年度 活動計画

事業目標	計画	評価指標
<p>【美原5丁目】 住民の健康の維持増進と、 外出・交流の場の継続がで きる。</p>	<p>【美原5丁目健康づくりサロン】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域支援グループくりの木を会場に実施する。 ・周知は美原町会に依頼する。 ・講師はレクリエーションインストラクターへ依頼する。 ・チラシをセンターにて作成する。 ・くらしのサポーターやボランティアによるリーダーを養成する。 ・リーダーが不在であれば半年ほどで終了も検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・開催回数および参加者数 ・健康づくりサロン参加者の行動変容 ・参加者の主観的健康観の変化 ・自主グループ化後の活動状況

(ア) 第2層生活支援コーディネーター業務

事業内容	令和元年度 活動評価											
	実績	評価										
第2層生活支援 コーディネーター活動	<p>○自主活動支援</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>会場</th> <th>支援回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>美原振興会館</td> <td>4回</td> </tr> <tr> <td>北美原町会館</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>石川町会館</td> <td>1回</td> </tr> </tbody> </table>	会場	支援回数	美原振興会館	4回	北美原町会館	1回	石川町会館	1回	<p>新型コロナウイルスの影響で3月の開催を中止したことにより、事後アンケートの実施が4月以降となるが、参加者の声としては「今後も継続してほしい」「外出や運動の機会がないのでうれしい」といった声が聞かれている。また、参加者がほぼ美原4、5丁目に限られており、顔見知りの関係を作れたとの声もある。令和2年度以降、リーダー役を担う参加者を探しつつ半年程度は継続するが、リーダーが不在の場合は終了することを検討する。</p> <p>【自主活動支援】</p> <p>美原振興会館は、リーダーが自立して開催できている。参加人数が減っているとのことで、周知等の支援を継続する。</p> <p>北美原町会館、石川町会館もリーダーが自立して開催を継続できている。</p>		
会場	支援回数											
美原振興会館	4回											
北美原町会館	1回											
石川町会館	1回											
住民主体の助け合い活動等の重要性についての普及啓発	<p>○地域の助け合いや社会資源にかかる出前講座・リーフレット配布等の依頼機関（R1.12末）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>機関名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>助け合い</td> <td>函館市町会連合会 函館薬剤師会</td> </tr> <tr> <td>社会資源</td> <td>ほのぼのカフェ</td> </tr> </tbody> </table> <p>○広報紙による周知</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年12月</td> <td>地域での見守りについて</td> </tr> </tbody> </table>	内容	機関名	助け合い	函館市町会連合会 函館薬剤師会	社会資源	ほのぼのカフェ	時期	内容	令和元年12月	地域での見守りについて	<p>地域の助け合いや社会資源の広報に関しては、頻度も対象機関数も不十分である。依頼を受ける際に希望の少ないテーマであるため、他のテーマと抱き合わせて広報・啓発する必要があると思われる。</p>
内容	機関名											
助け合い	函館市町会連合会 函館薬剤師会											
社会資源	ほのぼのカフェ											
時期	内容											
令和元年12月	地域での見守りについて											

令和2年度 活動計画

事業目標	計画	評価指標
<p>【自主活動支援】</p> <p>住民が、健康の維持増進のための知識を得ることができる。</p> <p>地域で自主化している教室の実態把握を行う。</p>	<p>【自主活動支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・圏域内で自主化している教室を訪問し、実施状況の把握とともに支援の必要性を判断する。 ・圏域内で新たな教室の立ち上げ希望がある場合に支援をする。 ・必要に応じて健康についての講話や講師を派遣するなど、健康に対する意識の向上や自主化教室の継続を後方支援する。 ・圏域内の教室について、リーダーの許可が得られれば、広報紙などへ掲載し周知をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・開催回数および参加者数 ・センターによる支援回数
<p>地域のことや、住民同士の支え合い、見守りに関心を持つ住民や関係機関が増える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分の住む地域のこと」に関心を持てるよう広報紙や出前講座等を有効に活用して周知を図る。 ・第2層協議体への参集を予定する機関や団体に関しては、広報紙や資料等を持参して趣旨や目的を説明し、協議体メンバーとしての参画・活動を求めていく。（学校関係者・PTA・コミュニティースクール関係者・老人クラブ・一般企業・住民等）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の支え合いや地域ケア会議にかかる広報・啓発回数とその方法

ウ 認知症総合支援事業

令和元年度 認知症支援推進員 活動報告書（認知症の取組）

地域包括支援センター名：亀田

【函館市地域包括支援センター運営事業業務処理要領抜粋】

オ 認知症総合支援事業

(イ) 認知症地域支援・ケア向上推進事業

- a 認知症の人に、状態に応じた適切なサービスが提供されるよう、認知症疾患医療センターを含む医療機関や介護サービス事業者、認知症サポーター等地域において認知症の人を支援する関係者の連携を図るための取組
- b 認知症の人とその家族を支援する相談支援や、支援体制を構築するための取組
- c 認知症カフェや介護教室等、認知症の人の家族に対する支援事業の実施
- d 認知症ケアに携わる他職種協働のための研修事業の実施

【令和元年度の取組】

1 認知症カフェの開催（c）

開催日	カフェ名	場所	参加人数	開催形態	情報提供コーナー	個別相談	あたまの健康チェック
令和元年5月18日	オレンジカフェ函館昭和	SOMPOケア函館昭和デイサービス	22人	協力	設置	設置	なし
令和元年6月20日	おれんじカフェ昭和	サ高住アメニティーコレクトピア3階	35人	主催	設置	設置	なし
令和元年7月30日	おれんじカフェ美原	イトーヨーカドーB1 フードコート	57人	主催	設置	設置	設置
令和元年8月17日	オレンジカフェ函館昭和	SOMPOケア函館昭和デイサービス	31人	協力	設置	設置	なし
令和元年9月26日	おれんじカフェ昭和	サ高住アメニティーコレクトピア3階	25人	主催	設置	設置	別日
令和元年10月29日	おれんじカフェ美原	イトーヨーカドーB1 フードコート	44人	主催	設置	設置	なし
令和元年11月16日	オレンジカフェ函館昭和	SOMPOケア函館昭和デイサービス	24人	協力	設置	設置	なし
令和元年12月12日	おれんじカフェ昭和	サ高住アメニティーコレクトピア3階	27人	主催	設置	設置	設置
令和2年1月21日	おれんじカフェ美原	イトーヨーカドーB1 フードコート	29人	主催	設置	設置	なし
令和2年2月22日	オレンジカフェ函館昭和	SOMPOケア函館昭和デイサービス	—	協力	設置	設置	なし
令和2年3月19日	おれんじカフェ石川	函館 蔦屋書店 2階ステージ	—	共催	設置	設置	なし
			全9回	294人			

※令和2年2月22日・3月19日分は、新型コロナウイルスの影響で中止。

2 認知症相談対応状況（b）

	H29	H30	R1年	
総合相談	78件	114件	117件	(延件数)
権利擁護ケース	483回	281回	379回	(実対応回数)

3 認知症初期集中支援チームとの連携（a）

対象事例はなかったが、認知症初期集中支援チーム員会議に出席
（平成31年4月18日、令和元年5月16日、6月13日、7月11日、8月8日、9月12日、10月10日、11月14日）

4 認知症ケアパス作成に関して（b）

認知症ケアパス作成検討会出席
（令和元年5月16日、6月21日、7月18日、9月12日、10月10日、11月12日、令和2年1月16日・各回1名出席）

5 認知症地域支援推進員との連携（b）

認知症地域支援推進員連絡会に出席
（平成31年4月24日、令和2年1月31日・各回2名出席）
認知症地域支援推進員 8名（全職員）

6 認知症地域支援推進員研修への参加（b、d）

令和元年7月12日～13日 認知症カフェ企画運営者実践研修 5名参加
令和元年9月26日 認知症初期集中支援チーム員伝達研修 2名参加（計8名）
令和元年10月2日～4日 認知症地域支援推進員（新任者）研修 2名参加（計4名）
令和元年12月16日～17日 キャラバンメイト養成研修 1名参加（計7名）
令和2年1月18日 北海道介護支援専門員協会道南ブロック研修会 3名参加

7 認知症サポーター養成講座の開催（a）

開催日	場所	対象	参加数
平成31年4月25日	蔦屋書店2階（石川）	一般市民（典礼社）	54人
令和元年7月18日	函館高等支援学校	高等支援学校生徒教員	15人
令和2年1月23日	渡島総合振興局	渡島総合振興局職員	33人
			102人

【令和2年度の取組予定】

・認知症カフェの開催・展開（c）

市の「認知症カフェ」の基準に則り事業展開する。

平成31年度から完全委託事業となり、美原、昭和、石川地域で開催し、認知症の人や家族、住民の正しい認知症の理解を深められるよう、相談機会の提供も併せて推進員としての役割機能を発揮する。

開催頻度：未定（美原、昭和、石川）

会場としては令和2年4月開設の「亀田交流プラザ」も圏域であることから、「認知症」をキーワードに開催場所として検討する。

今後、住民が「認知症の正しい理解と地域の見守り」について身近なこととして普及啓発を継続していく。

認知症カフェの後援：北東部第2圏域認知症カフェ参画事業所の開催するカフェへの協力体制を継続する。

圏域内の居宅介護支援事業所へ認知症カフェの周知を行い、参画者の掘り起こしを行う。

・認知症に関する広報・啓発活動（a）

亀田交流プラザと連携し、ふれあいホールや図書コーナー等での認知症に関する広報啓発活動を模索する。

・認知症相談対応（b）

速やかな支援に繋がるようワンストップで相談対応する。

総合相談対応、権利擁護対応を継続する。

・認知症初期集中支援チームの活動（訪問、チーム員会議参加）（a）

定例会議への参加、チーム員として研鑽を継続する。

本事業での支援が必要なケースはセンターで協議を行い、迅速に支援チームでの支援が開始できるよう対応する。

・認知症ケアパスの活用（b）

函館市と全センター、関係機関で作成した「認知症ケアパス」の活用により認知症の正しい知識の提供と、啓発活動による地域での見守り支援体制に寄与すべく、推進員業務に随時活用する。

・認知症地域支援推進員の業務（b、d）

関係機関との連携を強化する。

認知症の人や家族への相談支援を実施する。

支援に関する事業を企画・実施する。

認知症ケア等に関する研修に参加し、職員のスキルアップを図るとともに多職種とのネットワークを構築する。

・認知症サポーター養成講座の開催（a）

一般企業や各種団体からの依頼を受け開催することで、認知症を正しく理解し、支援できる住民を増やすことで、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを行う。

・認知症に関する出前講座の開催（a）

町会活動や各種団体からの講話依頼に対し、認知症関連のテーマで開催する。

ウ 認知症総合支援事業

【令和元年度の取組】

8 認知症にかかる出前講座・リーフレット配布の機関 (a)

内容	機関名
認知症	老人クラブ美原福寿会
	新婦人の会
	美原老人福祉センター
	グループホームあい
	ほのぼのカフェ
	函館薬剤師会

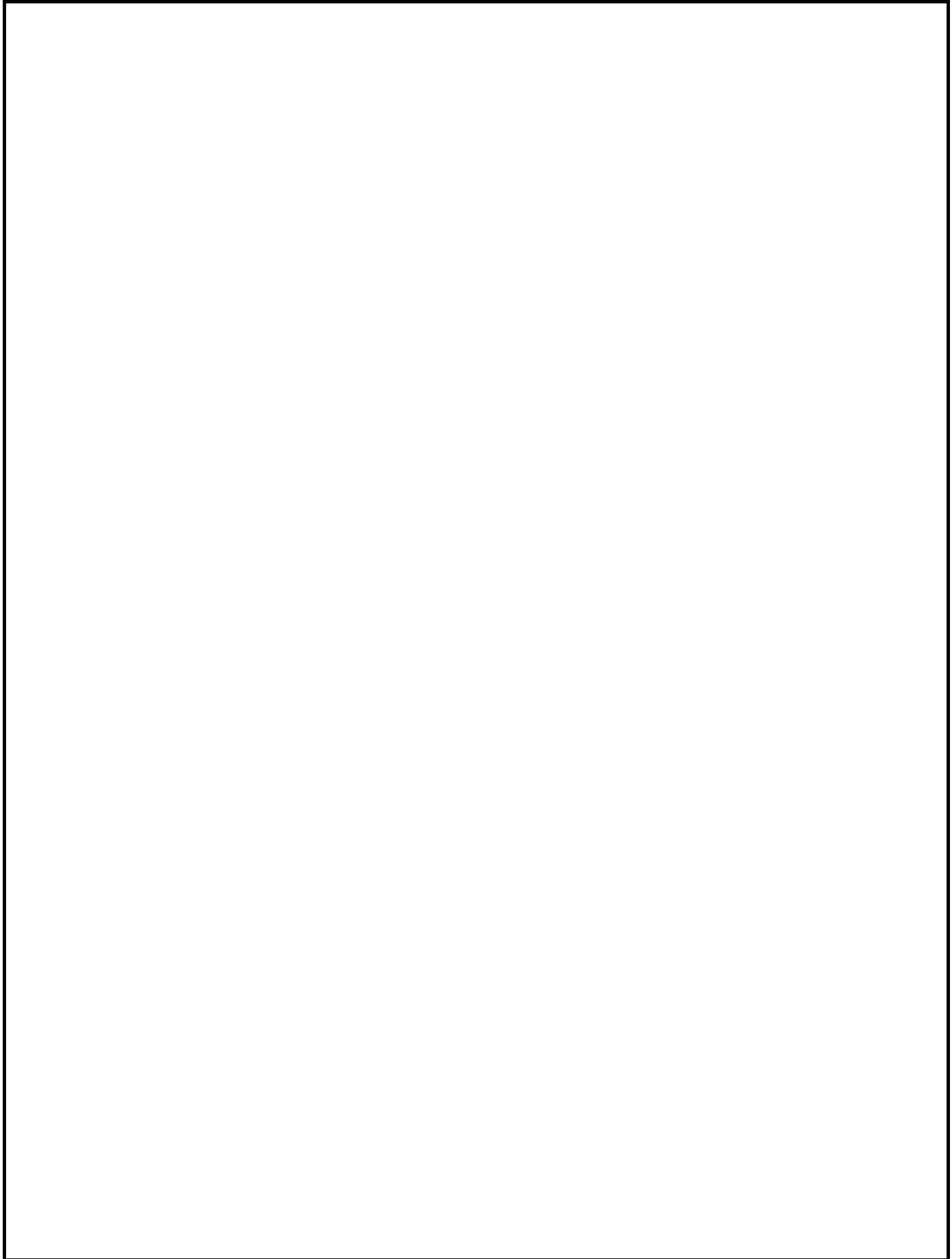
9 その他

- ・啓発として、圏域の居宅介護支援事業所へ認知症カフェの開催案内を配布するほか、センターの広報紙へ掲載し周知した。（主任ケアマネジャー2名が参画）
- ・圏域の各種関係機関へ認知症カフェのチラシ配布やポスターの掲示依頼を行った。
- ・過去に認知症カフェへ参加したことがある方へ、チラシ郵送など周知を行った。
- ・北東部第2圏域認知症カフェ参画事業所（2か所）や他センターと協力し、認知症カフェを企画・開催した。

【令和元年度の評価】

- ・総合相談において、「認知症」に関連する相談が、令和2年1月時点で117件と増加傾向にある。そのため、より早期での相談対応や広報啓発、「認知症カフェ」の開催など、タイムリーに対応していく必要性があった。新たに認知症カフェを複数か所で開催したが、協力体制を整備することで企画の段階から運営の打ち合わせを重ねて実施することができた。
- ・主任ケアマネジャー・社会福祉士・保健師全員が認知症地域支援推進員を兼務し、推進員業務に対応している。
- ・認知症ケアパスに関しては、認知症ケアパス作成検討会に複数回出席し、年度内で完成する予定である。
- ・認知症初期集中支援チームの対象事例はなかったが、通常対応や個別ケースの検討を行う地域ケア会議にて問題解決を図った事例は複数あり、権利擁護に関連する事例も多い。
- ・認知症地域支援推進員関連の研修や認知症カフェ企画へも積極的に参加し、実践に活用すべく努力した。
- ・今後の認知症の課題解決に向け、住民の「共生」のための正しい認知症の理解を深めるため、啓発活動を継続することが必要である。
- ・日常の相談業務や認知症カフェ開催等を含め、センター業務のあらゆる機会を活用し、関係機関や認知症疾患医療センター、医療機関や介護保険サービス事業者等と連携を図るとともに、本人・家族への早期相談対応に努める必要がある。
- ・認知症サポーター養成講座や出前講座の開催も継続し、支援者・理解者を地域に増やしていくことが急務である。

【令和2年度の取組予定】



② 介護予防・日常生活支援総合事業

※令和2年度から第2層生活支援コーディネーター業務へ移行

ア 一般介護予防事業

(ア) 地域介護予防活動支援事業（高齢者の生きがいと健康づくり推進事業）

【根拠法令】法第115条の4第1項第2号

【目的】地域の高齢者に対して、介護予防に対する意識を高め、自立した生活の継続と社会参加の促進を図るため、健康づくり教室を開催し、健康づくりに関する活動の体験や知識の普及を行う。

事業内容	令和元年度 活動評価																																																																																																								
	実績	評価																																																																																																							
健康づくり教室 (新規・継続・自主)	○自主活動支援	<p>【自主活動支援】</p> <p>美原振興会館は、リーダーが自立して開催できている。参加人数が減っているとのことで、周知等の支援を継続する。</p> <p>北美原町会館、石川町会館もリーダーが自立して開催を継続できている。</p>																																																																																																							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>場 所</th> <th>支援回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>美原振興会館</td> <td>4回</td> </tr> <tr> <td>北美原町会館</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>石川町会館</td> <td>1回</td> </tr> </tbody> </table>	場 所	支援回数	美原振興会館	4回	北美原町会館	1回	石川町会館	1回																																																																																																
	場 所	支援回数																																																																																																							
	美原振興会館	4回																																																																																																							
	北美原町会館	1回																																																																																																							
	石川町会館	1回																																																																																																							
	○新規教室	<p>【赤川町会館・新規教室】(R1.12末)</p> <p>・開催状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>開催回数</th> <th>参加者(実)</th> <th>参加者(延)</th> <th>1回平均</th> <th>1人平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6回</td> <td>17人</td> <td>57人</td> <td>9.5人</td> <td>3.3回</td> </tr> </tbody> </table> <p>・教室後に維持・向上した人数と割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>人数</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>主観的健康観</td> <td>10人</td> <td>90.9%</td> </tr> <tr> <td>運動や趣味活動</td> <td>10人</td> <td>90.9%</td> </tr> <tr> <td>外出頻度</td> <td>7人</td> <td>63.6%</td> </tr> <tr> <td>社会活動の頻度</td> <td>9人</td> <td>81.8%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・地域(町会や近所)との交流状況(複数回答)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">教室前</th> <th colspan="2">教室後</th> </tr> <tr> <th>ある</th> <th>あまりない</th> <th>ある</th> <th>あまりない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">ある</td> <td>挨拶程度</td> <td>3人</td> <td>0人</td> <td>3人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>立ち話をする</td> <td>2人</td> <td>0人</td> <td>2人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>行き来がある</td> <td>5人</td> <td>0人</td> <td>6人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>町会行事に参加している</td> <td>7人</td> <td>0人</td> <td>8人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>生活面で協力し合う</td> <td>1人</td> <td>0人</td> <td>1人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">あまりない</td> <td>知っている人がいない</td> <td>0人</td> <td>0人</td> <td>0人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>知り合う機会がない</td> <td>0人</td> <td>0人</td> <td>0人</td> <td>0人</td> </tr> </tbody> </table> <p>・参加した感想</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>人数</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>とてもよかった</td> <td>9人</td> <td>81.8%</td> </tr> <tr> <td>よかった</td> <td>2人</td> <td>18.2%</td> </tr> <tr> <td>あまり良くなかった</td> <td>0人</td> <td>0.0%</td> </tr> <tr> <td>期待はずれだった</td> <td>0人</td> <td>0.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・今後の取り組みについて(複数回答)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>人数</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>この教室で活動したい</td> <td>9人</td> <td>81.8%</td> </tr> <tr> <td>ほかの教室にも参加する</td> <td>1人</td> <td>9.1%</td> </tr> <tr> <td>ほかの教室にも参加したいが難しい</td> <td>1人</td> <td>9.1%</td> </tr> <tr> <td>自分で介護予防に取り組んでみる</td> <td>0人</td> <td>0.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・次年度の方向性 (自主教室として継続(町会、老人保健施設もも太郎の主催とし、センターは後方支援))</p>	開催回数	参加者(実)	参加者(延)	1回平均	1人平均	6回	17人	57人	9.5人	3.3回		人数	割合	主観的健康観	10人	90.9%	運動や趣味活動	10人	90.9%	外出頻度	7人	63.6%	社会活動の頻度	9人	81.8%			教室前		教室後		ある	あまりない	ある	あまりない	ある	挨拶程度	3人	0人	3人	0人	立ち話をする	2人	0人	2人	0人	行き来がある	5人	0人	6人	0人	町会行事に参加している	7人	0人	8人	0人	生活面で協力し合う	1人	0人	1人	0人	あまりない	知っている人がいない	0人	0人	0人	0人	知り合う機会がない	0人	0人	0人	0人		人数	割合	とてもよかった	9人	81.8%	よかった	2人	18.2%	あまり良くなかった	0人	0.0%	期待はずれだった	0人	0.0%		人数	割合	この教室で活動したい	9人	81.8%	ほかの教室にも参加する	1人	9.1%	ほかの教室にも参加したいが難しい	1人	9.1%	自分で介護予防に取り組んでみる	0人	0.0%	<p>○新規教室</p> <p>【赤川町会】</p> <p>老人保健施設もも太郎から、地域貢献活動を行いたいとの話があり、町会、もも太郎の協力のもと健康づくり教室を開催した。町会では周知や会場の提供、もも太郎は講師の派遣を行った。</p> <p>当初、月2回の開催を想定していたが、町会の老人クラブ(清流会)の行事と重なるため、月1回(第1火曜日)のみの開催となった。開催間隔が大きく開くため、参加者が開催日を忘れてしまうことが多く、3か月ごとに町会でチラシを配布した。</p> <p>赤川町会は会館と住宅街の距離が遠く、自家用車の乗り合いで参加する方もいた。また、徒歩での参加の方は、会場まで20分以上かかる場合もあり、参加しにくい環境が参加者数の伸び悩みや冬季の開催が難しい要因となっている。</p> <p>アンケートの結果、健康状態を維持できた方が多かった。他町会と比べ、もともと地域での交流や町会活動での他の参加者との関わりがあった方が多い印象があり、赤川町会の特徴の一つと考えられる。令和2年度以降については、継続を希望する参加者が多く、引き続き町会館を会場に、もも太郎主催の自主教室として継続する見込みで、センターはチラシ作成等の支援を行うこととなっている。</p>
	開催回数	参加者(実)	参加者(延)	1回平均	1人平均																																																																																																				
	6回	17人	57人	9.5人	3.3回																																																																																																				
		人数	割合																																																																																																						
	主観的健康観	10人	90.9%																																																																																																						
	運動や趣味活動	10人	90.9%																																																																																																						
	外出頻度	7人	63.6%																																																																																																						
	社会活動の頻度	9人	81.8%																																																																																																						
			教室前		教室後																																																																																																				
ある			あまりない	ある	あまりない																																																																																																				
ある	挨拶程度	3人	0人	3人	0人																																																																																																				
	立ち話をする	2人	0人	2人	0人																																																																																																				
	行き来がある	5人	0人	6人	0人																																																																																																				
	町会行事に参加している	7人	0人	8人	0人																																																																																																				
	生活面で協力し合う	1人	0人	1人	0人																																																																																																				
あまりない	知っている人がいない	0人	0人	0人	0人																																																																																																				
	知り合う機会がない	0人	0人	0人	0人																																																																																																				
	人数	割合																																																																																																							
とてもよかった	9人	81.8%																																																																																																							
よかった	2人	18.2%																																																																																																							
あまり良くなかった	0人	0.0%																																																																																																							
期待はずれだった	0人	0.0%																																																																																																							
	人数	割合																																																																																																							
この教室で活動したい	9人	81.8%																																																																																																							
ほかの教室にも参加する	1人	9.1%																																																																																																							
ほかの教室にも参加したいが難しい	1人	9.1%																																																																																																							
自分で介護予防に取り組んでみる	0人	0.0%																																																																																																							

令和2年度 活動計画

事業目標	計画	評価指標
(This table is currently blank and contains a diagonal line from the bottom-left to the top-right corner.)		

(7) 地域介護予防活動支援事業（高齢者の生きがいと健康づくり推進事業）

事業内容	令和元年度 活動評価																																							
	実績	評価																																						
<p>健康づくり教室 (新規・継続・自主)</p>	<p>【美原5丁目・新規教室】 (R1.12末)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 開催状況 <table border="1"> <tr> <th>開催回数</th> <th>参加者(実)</th> <th>参加者(延)</th> <th>1回平均</th> <th>1人平均</th> </tr> <tr> <td>12回</td> <td>15人</td> <td>94人</td> <td>7.8人</td> <td>6.2回</td> </tr> </table> ・ 地域（町会や近所）との交流状況（複数回答） <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>教室前</th> <th>教室後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">ある</td> <td>挨拶程度</td> <td>1人</td> <td>－</td> </tr> <tr> <td>立ち話をする</td> <td>8人</td> <td>－</td> </tr> <tr> <td>行き来がある</td> <td>3人</td> <td>－</td> </tr> <tr> <td>町会行事に参加している</td> <td>1人</td> <td>－</td> </tr> <tr> <td>生活面で協力し合う</td> <td>1人</td> <td>－</td> </tr> <tr> <td>あまり</td> <td>知っている人がいない</td> <td>1人</td> <td>－</td> </tr> <tr> <td>ない</td> <td>知り合う機会がない</td> <td>0人</td> <td>－</td> </tr> </tbody> </table> ・ 次年度の方向性 センターが主催の継続教室として実施。リーダーが不在の場合は、終了も検討する。 	開催回数	参加者(実)	参加者(延)	1回平均	1人平均	12回	15人	94人	7.8人	6.2回			教室前	教室後	ある	挨拶程度	1人	－	立ち話をする	8人	－	行き来がある	3人	－	町会行事に参加している	1人	－	生活面で協力し合う	1人	－	あまり	知っている人がいない	1人	－	ない	知り合う機会がない	0人	－	<p>【美原5丁目】</p> <p>美原5丁目の地域支援グループづくりの木のサロン会場を借りることができたため、町会等の協力も得て開催となった。会場が20畳程度とあまり広くないため、参加者数は10人程度の想定だったが、15人ほどの応募があった。しかし、1回あたりの参加者数の平均は7.8名であり、会場の広さに対して適正であったと考える。</p> <p>当初リーダーとなるボランティアの募集をしたが応募がなく、参加者にもリーダーとして活動する方がいなかった。今後、リーダーを見つけることで自主化し、活動を継続できるかがカギとなる。</p> <p>教室の講師は、町内に住むレクリエーションインストラクターの方に依頼し開催した。内容としては、運動量が少なめで楽しむ要素が強く、高齢の参加者も継続参加できている。</p> <p>開催日を会場の都合から毎週第2、4月曜日に設定したが、月曜日は祭日が多く代替日も設定できないため、月1回の開催となることも数回あった。間隔が大きくなり、開催日を参加者が忘れてしまうことがあり、参加者が少なくなる要因の一つと考えられた。対策として電話や手紙などで参加を促し、継続参加を図った。</p> <p>新型コロナウイルスの影響で3月の開催を中止したことにより、事後アンケートの実施が4月以降となるが、参加者の声としては「今後も継続してほしい」「外出や運動の機会がないのでうれしい」といった声が聞かれている。また、参加者がほぼ美原4、5丁目に限られており、顔見知りの関係を作れたとの声もある。令和2年度以降、リーダー役を担う参加者を探しつつ半年程度は継続するが、リーダーが不在の場合は終了することを検討する。</p>
開催回数	参加者(実)	参加者(延)	1回平均	1人平均																																				
12回	15人	94人	7.8人	6.2回																																				
		教室前	教室後																																					
ある	挨拶程度	1人	－																																					
	立ち話をする	8人	－																																					
	行き来がある	3人	－																																					
	町会行事に参加している	1人	－																																					
	生活面で協力し合う	1人	－																																					
あまり	知っている人がいない	1人	－																																					
ない	知り合う機会がない	0人	－																																					

令和2年度 活動計画

事業目標	計画	評価指標

(7) 地域介護予防活動支援事業（高齢者の生きがいと健康づくり推進事業）

事業内容	令和元年度 活動評価	
	実績	評価
住民への 介護予防に関する 広報・啓発活動	○地域の助け合いや社会資源にかかる出前講座・リーフレット配布等の依頼機関（R1.12末）	
	内 容	機関名
	助け合い	函館市町会連合会
		函館薬剤師会
	社会資源	ほのぼのカフェ
○広報紙による周知		地域の助け合いや社会資源の広報に関しては、頻度も対象機関数も不十分である。 依頼を受ける際に希望の少ないテーマであるため、他のテーマと抱き合わせで広報・啓発する必要性があると思われる。
時 期	内 容	
令和元年12月	地域での見守りについて	

令和2年度 活動計画

事業目標	計画	評価指標